

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p. 2
① 学生確保の見通し	
ア 定員充足の見込み	
(ア) 定員設定の考え方	
(イ) 定員充足の見込み	
a. 心身科学部心理学科の受験動向	
b. 心理学部の需要と社会的期待	
c. 理系学生を対象とした受験方式の設置	
d. 地域密着型大学の強みを活かす	
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータ概要	p. 4
(ア) 既設の心身科学部心理学科の入学実績	
(イ) 全国心理学部の受験者動向と近隣大学の傾向	
(ウ) 高校生を対象とした事前アンケートと結果と選択科目の傾向	
(エ) 愛知学院大学の出身都道府県と東海4県の進学・就職の傾向	
② 学生確保に向けて具体的な取り組み状況	p. 5
(ア) 紙媒体、SNS等を利用した活動	
(イ) 高等学校への訪問	
(ウ) オープンキャンパス	
(エ) 高校内ガイダンスの実施	
(オ) 進学相談会	
(カ) 高校教員対象入試説明会	
(キ) 高等学校への出張講義	
ウ 学生納付金の設定の考え方	p. 7
(2) 人材需要の動向等社会の要請	p. 7
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	
(ア) 養成する人物像	
(イ) 学生に習得させる能力等の教育研究上の目的	
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	p. 8
(ア) 大学全体の求人件数	
(イ) 養成する人材像の特長と社会的ニーズ	
(ウ) 人材需要の根拠となる調査結果の概要	

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

(ア) 定員設定の考え方

心理学部心理学科の入学定員設定は、後述する 4 つの理由により 1 学年 160 名（2 年次編入学定員 1 名、3 年次編入学定員 1 名）に設定した。はじめに既設の心身科学部心理学科の志願状況から、本学部定員の妥当性を示すことができる（資料 1）。現在の心身科学部心理学科は、受験倍率も高い水準で保たれており、この状況を心理学部において引き継ぐものと考えている。次に、現在における心理学部に対して社会的需要が高いことがあげられる。全国における心理学部の受験者動向（資料 2）と企業等の人材需要を鑑みると、心理学部への高い期待が伺える（資料 3,4）。3 つ目に今回の教育課程の変更は、既存の分野に加え心理学をデータサイエンス、感性工学まで拡張を明示させることにより、理系の受験生の増加を見込んでいる。もともと心理学は数理統計学、情報科学、認知科学など自然科学的要素を多く含むこと、または密接に関連していることは受験生にはあまり知られていない。そこでこれら特徴を理系クラスの学生に積極的にアピールしていく。そして 4 つ目に本学の立地条件と地域特性の強みを活かすことができる。本学の在校生の多くは東海 4 県（愛知、岐阜、三重、静岡）からの出身者が多く、当該地域における高等学校および中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況から十分に定員充足を期待できる。以上の状況を総合的に勘案した上で、心理学部で設定した定員が妥当であるものと判断している。

心身科学部心理学科			⇒	心理学部心理学科		
入学定員	編入学定員	收容定員		入学定員	編入学定員	收容定員
人	人	人		人	人	人
	2 年次	3 年次		2 年次	3 年次	
140	1	1		160	1	1
		565				645

(イ) 定員充足の見込み

本学部は心身科学部心理学科の受験動向、社会的需要と期待、新しい教育課程の設置、立地条件と地域特性の点から、定員充足が可能であると判断している。

a. 心身科学部心理学科の受験動向

本学既設の心理学科の直近 5 年（平成 28～令和 2 年度）の総志願者数は、定員に対して十分に確保されている。心理学科の 5 年間ににおける平均志願者数 1,551 名であり、平均志願倍率は 10.9 となっている。また実質的な競争倍率となる受験者数に対する合格者数の平均倍率は 2.9 を維持し、心理学を専門的に学びたいという受験生は安定的に存在する。なお当該期間の平均入学定員超過率は 1.05 倍となっているが、高い志願者率、受験倍率のバランスを維持しながら適切な定員管理を行っている（資料 1）。

b. 心理学部の需要と社会的期待

直近 5 年間の全国における心理学部志願者・入学者動向から鑑みると、心理学部の定員の充足は十分に期待できる（資料 2）。また、直近の 5 年間に於いて心理学部を設置

する大学は、14校から21校へと増加し、入学定員数も5年間で約1.35倍と増加している。それに対して志願者数は1.96倍と定員増加率に比べて高く、平均志願者倍率も8.6倍と高い水準を維持している。これは公認心理師法が施行され心理的支援の専門職が国家資格化されたことも一因となっている。また高校生を対象とした進路調査ではカウンセラー・臨床心理士は上位にランキングされており、高校生にとっても魅力的な職種の一つ（資料5）であるといえ、職業の選択肢として心理の専門職を目指す受験線が一定数存在する。従って、ここ数年間において本学も含め心理学部の志望者数が増加傾向にあると予測される。

また本学の新しい心理学部のコンセプトは、多くの高校生にとって魅力的に感じていることが伺える。東京都および東海4県の高校生を対象に行った事前アンケートの調査結果では、調査対象者（11,697名）において「受験したい&入学したい」と回答した割合は13.3%に達している（資料3,6）。このことから、本学の心理学部への入学を希望する受験生はかなりの割合で存在しており、その需要の高さを裏付けるものである。

さらに受験者を東海4県に限定した場合でも、長期的かつ安定的に定員数を確保できると考えている（資料7）。資料3,11のデータに基づき、「受験したい&入学したい」を希望する東海4県の受験者数の推移を算出した。18歳未満の人口減少によって受験者数も減少傾向にあるが、2030年度時点でも1400名以上を維持できると予測している。これらの結果は、将来的にも定員160名を十分に維持できることを示唆している。

加えて、心理学部の卒業生の採用においても、企業側からの魅力および期待も高いといえる（資料8）。企業を対象とした事前アンケートにおいて、本学の特色の4項目についての魅力を調査したところ、多くの企業から「魅力的である」との回答を得ている（70.8%～93.1%）。また「社会的必要性（94.4%）」や「卒業生の採用意向（80.8%）」についても、高い評価を得ており、心理学部のカリキュラムによって育成した人材の社会的需要も十分にあるといえる。このような結果は、心理学部にとって良好な就職率を維持できる地盤があると考えられる。

c.理系学生を対象とした受験方式の設置

理系出身者を積極的に取り込むことにより、入学希望者の増加をねらいとしている。事前アンケートにおいて、理系クラス（理系コース）に所属する高校生において心理学部に魅力を感じる割合は66.9%と高く、同項目における文系クラス（コース）の割合（74.0%）と同程度であることが示されている（資料3）。これは今まで把握できていなかった理系出身者のニーズを反映したものと考えられる。本心理学部は文理融合型のカリキュラムが特長であり、データサイエンスや感性工学など理系出身者にも学びやすい講義・演習を整備していることが十分に理解されたものといえる。

また既設の心理学科の受験では、選択科目に数学を選択する受験生は他の文系学部よりも多い傾向にあった（資料9）。しかし実際の志望者は文系出身者が多く、理系の受験者を十分に取り込めていない。その理由に、現在の受験方式では国語・外国語（英語）を必須とし、選択科目を社会（日本史、世界史）または数学（数学Ⅰ・A・Ⅱ）に設定していることも起因する。このような方式では文系科目の得点比重が高いため、理系の受験生が受験しやすい科目セットにはなっていない。

そこでこれらの問題点を解消するために、理数系科目の比重を高くした受験方式を設定する。具体的には、英語、数学Ⅰ・A・Ⅱを必須、理科（生物基礎、化学基礎）を

選択科目に加えた受験方式を追加し、理系科目を得意とする学生を積極的に取り込むことを行っていく。

以上の対応策により、従来心理学系学部を受験しなかった理系出身者を取り込むことが可能となり、定員充足に寄与できると考えている。

d.地域密着型大学の強みを活かす

本学の特長である地域密着型を維持し、学生確保に努めていく。本学における入学者の出身都道府県、人口推移、大学進学率、大卒者の県内就職率の観点から総合的に判断すると、他の都道府県に比べ、学生確保において好条件である。

本学における入学者は愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の東海4県からの出身者が約87%となり大半を占めている(資料10)。心理学部の学生募集では従来と同様に東海4県を中心に学生募集を展開し、学生確保に努める。東海地区の18歳未満の人口推移は2019年度を基準にすると、2030年までに約10%の減少が生じることが予測されている(資料11)。しかし2020年度の国勢調査によると2015年に比べ愛知県の人口はわずかに増加しており、当面は十分な人口が維持されていくものと考えられる。

また愛知県は県内への進学率が高い点は特徴的であり、県内の大学進学への意向が強いエリアである(資料12)。地元への進学率が約70%と高く、高校卒業後の進学先として、地元の大学を優先的に選択する傾向にあるといえる。

さらに愛知県の大学進学者の就職において愛知県内の就職率も高い(資料13)。愛知県、岐阜県および三重県は第2次産業が中心となっており、このような産業構造のおかげで経済活動も比較的安定している。加えて完全失業率も低水準を維持している(資料9)。財政力指数も0.91と東京都に続き高い水準を維持していることから、他の都道府県に比べ産業活動が良好であり、学生が就職しやすい環境である。以上の地域特性を十分に活かし、愛知県内に進学することの利点を受験生にアピールできるものと考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータ概要

(7)既設の心身科学部心理学科の入学実績(資料1)

本学入試広報課の資料に基づき、心理学科の直近5年(平成28～令和2年度)の総志願者数を集計した表である。心理学科の5年間における平均志願者数1,551名であり、平均志願倍率は10.9となっている。また実質的な競争倍率となる受験者数に対する合格者数の平均倍率は2.9を維持している。定員に対する入学者数は適切に確保されている。

(4)全国心理学部の受験者動向と近隣大学の傾向(資料2, 5)

過去5年の私立大学・短期大学等入学志願動向、および過去3年間の近隣かつ類似の学部学科を有する大学の志願者動向を集計した(資料2)。全国的な特徴としては平成29年度の公認心理師法の施行も影響し、直近の5年間において心理学部を設置する大学が14校から21校へと増加している。それに伴い入学定員数も5年間で約1.35倍と増加しているが、志願者数は1.96倍と定員増加率に比べて高くなっている。また平均志願者倍率も8.6倍と高い水準を維持している。

近隣の心理学系学部・学科を有する大学に限って見てみると、どの大学も募集定員に対する志願者数も高い水準となっていることがわかる。本学においては140名のと

ころ 160 名として算出したが、本申請前においても 160 名の定員を充足できたことが分かる。

また心理系職種への興味関心の高さを示す補足資料として「中高生が思い描く将来についての意識調査（資料 5）」を添付した。心理カウンセラーや臨床心理師（現在では公認心理師に相当）への希望は女子生徒に多いことがわかる。

(ウ)高校生を対象とした事前アンケートと結果と選択科目の傾向（資料 3,6,7,9）

心理学部の概要を示すリーフレット（資料 6）とともに、調査用紙を用いて事前アンケートを行った。対象は東京都、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の高등학교に通う高校生 11,697 名（男：女=5,360：6,284）を対象とした（資料 3）。

各質問項目について集計した主な結果は次の通りである。心理学部の 4 つの特色について、「とても魅力を感じる。」または「ある程度魅力を感じる。」を回答している比率は 66.5%～73.3%となっており、高校生にとって魅力的と感じる構想であることがわかる。また全回答者に対して、「受験且つ入学したい。」と回答した割合は 13.1%（1,528 件）となり、定員の確保が十分に期待できる。また資料 7 ではアンケート結果と東海 4 県における 18 歳未満の人口推移から、2030 年度入試までの受験および入学意向のある受験生を予測したところ、十分な定員確保が見込めることを示している。

さらに回答内容に応じたクロス集計を実施した。まず所属クラス毎の回答を分類したところ、文系クラスと同様に理系クラスにおいても特色に魅力ありと回答していた。また「受験且つ入学したい。」と回答した割合は、文系クラスで 14.7%、理系クラスで 8.7%となり文系クラスで高い比率であったが、理系クラスにも受験および入学を前向きに検討する層が一定数存在することが確認できた。

そして過去の心理学科の受験者には理系科目を得意とする学生の割合を調査した（資料 9）。心理学科と同じ受験科目選択が可能な文系学部との比較するため、文学部、総合政策学部、経営学部、経済学部、商学部、法学部の数学選択者の割合を比較した。その結果、心理学科の受験者では他の文系学部よりも数学選択の割合が高く、もともと理系科目を得意とする学生が他の文系学部よりも多く存在することが示されている。

(エ)愛知学院大学の出身都道府県と東海 4 県の進学・就職の傾向（資料 10～13）

本学における過去 3 年間の入学者出身都道府県を示した（資料 10）。愛知県からの入学が 60%を占めており、岐阜、三重、静岡の東海 4 県を含めると、約 87%程度となり、地域密着型の大学であることがわかる。これらのデータは、東海 4 県を中心に学生募集活動を展開し、定員確保に努めることが望ましいことを示している。

また東海 4 県の 18 歳未満の人口推移は、2019 年度を基準とすると 2030 年まで約 10%の減少が生じている。しかし、もともと人口規模の大きい愛知県では、他の 3 県に比べやや高い水準を維持しており、愛知県出身者が 60%となる本学においては、当面は十分な人口を維持しているといえる（資料 11）。また愛知県は県内への大学進学率（資料 12）や県内への就職率（資料 13）が高く、進路先が地域内に留まる意向が強いエリアである。このような状況は愛知県の特徴であり、定員確保のための大学へ進学者を開拓する余地が十分にあるエリアといえる。

②学生確保に向けて具体的な取り組み状況

本学は、9 学部を擁する総合大学として、過去 5 年平均で 25,162 人以上の志願者を

集めている。そうした数多くの本大学を志望しようとする生徒・保護者をはじめ、高校・予備校などへ対応するため、全学をあげて組織的な学生募集活動を展開している。特に愛知・岐阜・三重の東海三県においては、ほぼ全ての高校から志願者、入学者の実績があり、東海三県以外においても広範なエリアの高校から志願者、入学者を獲得している。心理学部においても、東海三県に留まらず、全国から心理学分野を志願する学生の受け入れを想定している。

本学では、学生募集の専門部署として入試センターを設置しており、入試センターを中心として様々な広報活動を展開している。学生確保に向けた主な取り組みとして、オープンキャンパス、高校訪問、出張模擬講義、本学独自の入試説明会、各地区での進学相談会などを実施している。また、大学案内や学部紹介リーフレットの作成・配布、受験情報誌、受験情報 WEB サイト等の各種媒体への広告出稿も行っている。また、大学全体での広報活動のほか、心理学部に特化した広報活動も新学部設置に向けて計画している。

なお、主な学生確保の取り組みは、次のとおりである。

(ア)紙媒体、SNS 等を利用した活動

受験情報雑誌、交通広告、TV-CM や受験生サイト STARTLINE、LINE、Instagram を通して、受験生に役立つ情報を定期的に配信している。アイガク PR 大使（本学の魅力を発信する学科代表学生）によるキャンパスと学部学科の魅力発信、アイガクの幅広い学びを学部学科教員が動画を通して伝えるアイガクにマナベ！など独自の取り組みにより、他大学と差別化を図り、相乗効果の高い訴求を実施している。

(イ)高等学校への訪問

高等学校への訪問活動は入試業務全般を所感する入試センター所属職員が中心となって、中部地区、北陸地区の高校を対象として年間延べ 3 回程度の高校訪問を実施している。訪問した際には、入試概要・前年度入試結果、本学の教育研究活動の取り組み等について説明し、本学の状況を理解いただいている。また、継続的な訪問活動によって、高等学校の教員との信頼関係を構築している。

(ウ)オープンキャンパス

オープンキャンパスは、日進・名城公園・楠元キャンパスの 3 キャンパスで、年 3 回開催している。各学部の特長を活かした模擬授業や体験実習から、本学自慢の施設を巡るスタンプラリーやクラブ・サークル紹介、外部講師による英語・小論文の入試対策講座まで、盛りだくさんのイベントを実施している。キャンパスツアーにおいては、在校生をガイドとすることで、本学学生と高校生が触れ合う機会を設け、本学への興味関心を高める取り組みを行っている。2020 年度はコロナ禍であり、従来のスタイルで実施出来なかったことから、オンラインによる個別相談・入試対策講座、LIVE（Web 型）イベント、動画の配信等を企画し、WEB OPEN CAMPUS として実施した。

(エ)高校内ガイダンスの実施

高等学校で実施される進路ガイダンスや入試説明会等に本学の教職員が参加し、大学の教育研究内容の紹介や、学生生活、入試制度等について説明をおこなっている。これにより、大学での学びについて興味・関心を持ってもらうとともに、本学を知っても

らう機会にも繋げている。

(f)進学相談会

全国の主要都市で開催される民間業者が主催する進学相談会に参加し、大学の教育研究内容の紹介や、学生生活、入試制度等について説明することにより、東海圏以外の地域からの受験生の獲得にも繋げている。

(g)高校教員対象入試説明会

例年、愛知・三重・岐阜・静岡の4県を対象に8会場を設けて高等学校の教員を対象に入試説明会を実施している。本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらおう効果が期待される。

(h)高等学校への出張講義

高等学校からの依頼に基づき、大学教員がおこなう模擬講義を各高校で実施している。教員の理解と協力を得ながら、今後も実施していく予定であり、本内容を通じて、大学の教育・研究内容を紹介する中で、本学へ興味・関心を持ってもらう機会にも繋げている。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金の設定にあたっては、心理学部心理学科における教育研究の実現・大学の健全な運営を継続することを観点に、以下のとおり設定した。

(単位:円)

大学	学部	学科	入学金	授業料等	初年度合計
愛知学院大学	心理	心理	240,000	1,169,000	1,409,000

本学部が競合すると考えられる、近隣の類似学部・学科の学生納付金(初年度納入金)は以下(参考)のとおりである。ほぼ同水準の金額となっており、競合すると考えられる近隣大学と比べて合理的な範囲である。

大学	学部	学科	入学金	授業料等	初年度合計
中京大学	心理	心理	200,000	1,240,000	1,440,000
愛知淑徳大学	心理	心理	200,000	1,170,000	1,370,000
中部大学	人文	心理	280,000	1,193,300	1,473,300
南山大学	人文	心理人間	250,000	990,000	1,240,000

(参考)近隣の類似学部・学科の学納金※各大学のホームページより参照 (単位:円)

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

(f)養成する人物像

心理学部では個人または集団の行動特性と取り巻く環境要因を客観的に評価し、心理学的知見を活用し解決策を導くことができる人材を養成すること主目的としている。それは帰属するコミュニティの問題解決に能動的に取り組むこと、高いコミュニケ

ーション能力とストレスマネジメント能力を備えること、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づきその実力を職業・地域生活・家庭運営等に活用・応用できることである。

そして心理学の基礎的知識と技能を基軸としつつ、心理学実践分野、多文化共生分野、情報ビジネス分野の何れかの専門知識と技術を兼備し、心理学の新しい活用法を立案、展開できる人材養成を目的とする。さらに個々の専門分野において、現代社会が直面する「こころ」に関する諸問題を科学的かつ客観的な視座から研究し、未来のより良き人間社会の構築に学術的に貢献しうる研究者を養成することも重要であると考えている。

(4)学生に習得させる能力等の教育研究上の目的

心理学部では基礎教育と専門教育の 2 つの観点から人材養成のための方針を定めている。まず基礎教育として、心理学実験や心理学の各論による心理学の基礎教育を介して、人の心理的問題を解明または解決するための科学的アプローチを理解し、学生個人のストレスマネジメントとコミュニケーション能力を高め、多種多様な職種や現場で柔軟に適応できる人材を育成することである。

そして専門的知識と技能を活用し、多様な場面における新規の諸問題に対して、多角的かつ科学的に分析し、解決へ導くことのできる人材育成を目的とする。心理学実践分野では、保健医療、福祉、教育、産業等の現場において、心理的援助のできる人材育成を目的とする。本学は主に東海圏において多くの臨床心理士を輩出し、これまでの教育実績を活かした心理臨床家を養成する。多文化・共生分野では、多様な分野と連携する視点と技術を持つ人材養成を目的とする。我が国における人種、文化、職種の多様化に伴い、人々の心理・行動特性の理解の多様性も求められる。公務員および民間企業の対面業務において、様々な価値観を共有できるユニバーサルな人材を育成する。情報・ビジネス分野では、データサイエンス、感性工学、行動経済学等の知識と技術を修得し、心理学的知見をビジネスに応用できる人材養成を目的とする。人の行動特性の評価に加え、ビッグデータ、仮想現実、人工知能の技術を融合させ、多様な産業に有効活用できる教育を展開する。

以上の教育システムにより、臨床心理学の基礎知識と技能に加え、高度な専門知識と技能の修得のために公認心理師、公的機関または民間企業において、生育環境や価値観の異なる多様な人々を対象に、包括的なマネジメントを求められる対人業務を担う専門家、社会・市場調査と分析、デザイン、対人サービスなどの産業において企画・開発を担う業務に従事する専門職、理学分野または隣接諸科学分野（神経科学、情報科学等）の研究者の育成をねらいとしていく。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(7)大学全体の求人件数

本学は現在、文学部、心身科学部、商学部、経営学部、経済学部、法学部、総合政策学部、薬学部、歯学部の 9 学部 16 学科を有し、東海地区有数の総合大学として位置づけられている。この強みを活かして様々な分野からの求人募集を受けることができ、高い就職実績を維持している（資料 14）。既設の心理学科においても、大学院への進学者 1 割を除くと約 95%程度の就職率を保っており、就職希望者に対して十分な求人募集

を得られている。

さらに全国社長の出身大学（東京商工リサーチ、2020）に関する調査によると、企業の社長職に就く数が全国でも18位にランキングされており（資料15）、愛知県ではトップとなっている。すなわち愛知県内の様々な分野の企業において、リーダー的役割を果たす卒業生も多いといえる。これは本学の人材養成および教育上の目的が、地域の人材需要の動向等の社会の要請に今日まで応えてきたことを反映してきたと考えている。

以上のように良好な求人数を保すことにより、社会貢献できる人材を輩出する高等教育機関として高い期待に応えていくことを目指していく。

（イ）養成する人材像の特長と社会的ニーズ

前述した心理学部の養成する人材は、まずはストレスマネジメントの観点から高いニーズが期待できる。ストレスマネジメントとコミュニケーションのスキルは、分野を問わず様々な現場で求められるスキルである。メンタルヘルス不調により連続1か月以上の休業をした労働者がいた事業所割合は事業所の規模に応じて増加し、1000人以上では91.9%の事業所が該当している（資料16）。多くの職場環境において、メンタルヘルスのサポートを必要とする現場は多く、円滑な組織運営において重要な要素と位置づけることができる。ストレスの軽減は、労働生産性を高めることは周知の事実であり、本学部の教育課程では、当人自身および周辺の人たちへの支援できる人材育成を目指している。またストレスマネジメントとコミュニケーションスキルへの教育に関心をもつ企業は93.1%と高い（資料8）。ストレスマネジメントとコミュニケーション力は、間接的に労働生産性を高めることにも貢献でき、様々な産業からのニーズも十分に期待できる。

心理学実践分野は主に公認心理師を目指す学生であり、これまで同様、心理臨床家を必要とする分野において、安定的にニーズが見込まれる。前述に示した通り多くの外国人が在留する東海圏において、異なる価値観が混在することを理解しながら柔軟に対応できる人材の必要性が増すものと考えている。公認心理師や臨床心理士もこのような多様性を熟知し、心理臨床活動を務めることが求められる。

そして多様性の理解は、教育現場、地方自治体の市民サービス、民間の対面業務においても必要である。言葉の違いのみならず、ルーツが異なる人々と協力するために、相手の文化を理解し、私たち固有の文化との違いを理解しなければならない。愛知県では各地の社会システムの一員として生活を営んでいる在留外国人も多く（資料17）、互いに共存するための社会的規範の構築は必要となってくる。異文化に対して高い寛容性をもつ人材は、職場や地域社会において重要な役割を果たすことができる。

データサイエンス分野は、文部科学省において、「Society5.0の実現及びウィズコロナ・ポストコロナに向けた人材育成の強化」の政策として立案されており、その推進が図られている（資料18）。同時にその需要は既に高まりつつあり（資料4）、心理学部もこの産業構造の変化に対して寄与していく。データサイエンスはこれまで認識困難であった相関関係を検出し、新しい利益を生み出す技術として期待されている。その一方で各変数の因果関係を示すものではないことも同時に注意喚起している。心理学部の強みは、人を対象とした適切な調査項目の設定、行動実験を立案できることであり、人を対象とする客観的なデータ計測を基本としている。すなわち、信頼性の高い計測方法により、分析結果の信頼性や妥当性を十分に担保するためのスキルを備える人材と

なり、データサイエンスを専門とする学部の人材育成とは一線を画す。データサイエンス分野の人材の需要は高いが、他とは異なる人材を輩出する。これまで主に理学系または工学系分野の出身の分野に、人の観察することのできる専門家を配置することにより、新しい技術、サービスの開発に貢献できる。

(ウ)人材需要の根拠となる調査結果の概要

心理学部における人材需要への見通しを測定するために、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業・団体等に対して、事前アンケートを実施し（資料 8）、卒業生の採用が期待できる事業所 480 団体から回答を得た。なお 91.9%の団体が人事選考に関わっている担当者からの回答があった。また全体の 82.9%は東海 4 県に所在する事業所とし、これまでの卒業生の進路先が反映されている。

約半数の団体は卒業生の学問分野についてこだわらない（51.5%）との回答であったが、そのような状況においても心理学分野の学生を採用したいと回答した団体は 17.5%であった。「心理学部心理学科の必要性」の問いにおいては、94.4%の団体が必要であると回答している。また「心理学部 心理学科 卒業生に対する採用意向」については、80.8%の団体が採用の意向を示しており、想定される求人募集数も 661 名と算出された。

心理学部の特色によって育成された人材は、企業にとっても高い魅力を感じていることが分かる。本学の特色の 4 項目についての魅力度に関する問いでは、多くの企業から「魅力的である」との回答を得ており（70.8% ～ 93.1%）、心理学部のカリキュラムによって育成した人材の社会的需要も十分に期待できる。以上の結果から、卒業後の進路において十分な見通しがあると考えられる。

資 料 目 次

- 資料 1 心身科学部心理学科の入学実績
- 資料 2 全国の心理学部の志願者・入学者動向および近隣の類似学科の志願者動向
- 資料 3 心理学部設置に関するニーズ調査【高校生対象調査】
- 資料 4 データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果
- 資料 5 中高生が思い描く将来についての意識調査 2019
- 資料 6 新学部構想のリーフレット
- 資料 7 東海 4 県における「受験および入学意向」を示す受験生の予測値
- 資料 8 心理学部設置に関するニーズ調査【企業対象調査】
- 資料 9 本学の選択受験科目における数学選択の傾向
- 資料 10 本学の出身都道府県データ
- 資料 11 東海 4 県の 18 歳未満の人口予測推移
- 資料 12 都道府県データでみる大学進学・初職就職時の地域間移動
- 資料 13 都道府県別の県内就職率
- 資料 14 全国および本学における求人件数
- 資料 15 2020 年「全国社長の出身大学」調査：東京商工リサーチ
- 資料 16 厚生労働省 平成 30 年労働安全衛生調査(実態調査)
- 資料 17 愛知県の外国人の状況
- 資料 18 数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進

資料1 心身科学部心理学科の入学実績（平成28年度-令和2年度）

○心身科学部心理学科（入学定員：20名増）

	旧入学定員	新入学定員
入学定員	140	160

学部名	学科名		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	平均
心身科学部	心理学科	志願者	1247	1470	1275	1819	1945	1551
		受験者	1211	1412	1253	1770	1895	—
		合格者	570	464	463	523	540	—
		入学者	149	151	144	155	136	—
		志願倍率	8.9	10.5	9.1	13.0	13.9	9.7
		定員充足率	1.06	1.08	1.03	1.11	0.97	—
		歩留率	0.26	0.33	0.31	0.30	0.25	0.29
		新定員を充足するために必要な合格者数	612	492	514	540	636	559

・過去5年間の志願者数から、予想される志願倍率を算出。（平均志願者数÷新入学定員）

・合格者数に対する入学者数の割合から、歩留率を算出（入学者÷合格者）し、新入学定員を充足するために必要な合格者数を算出。（新入学定員÷歩留率）

⇒新入学定員を充足するために必要な合格者数と過去5年間の志願者数を比較し、適切な入試選考を実施できる志願倍率を維持できるか検証することで、学生確保の見通しを示した。

新定員を充足するために必要な合格者数

=（新定員－入学者）x 歩留率の逆数+ 各年度の合格者数

資料2 全国の心理学部の志願者・入学者動向および近隣の類似学科の志願者動向

1. 全国の心理学部の志願者および入学者動向

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	平均
学部数	14	14	18	18	21	17
入学定員（人）	2195	2185	2723	2713	2968	2556
志願者数（人）	15051	17324	23026	28076	29548	22605
志願倍率	6.8	7.9	8.4	10.3	9.9	8.6
入学者数（人）	2198	2405	2935	2832	3098	2693
入学定員充足率（%）	100.1	110.0	107.7	104.3	104.3	105.28

令和2年度～平成29年度 私立大学・短期大学等入学志願動向より引用して作成

2. 近隣の類似学科の志願者動向（2018年度－2020年度）

	2020年度			2019年度			2018年度		
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
愛知学院大学 心身科学部 心理学科	160	1917	11.9	160	1830	11.4	160	1258	7.8
中京大学 心理学部 心理学科	175	3225	18.4	175	3056	17.4	175	2893	16.5
愛知淑徳大学 心理学部 心理学科	180	2008	11.1	180	2001	11.1	180	1668	9.2
中部大学 人文学部 心理学科	90	585	6.5	90	763	8.4	90	654	7.2
南山大学 人文学部 心理人間学科	110	1415	12.8	110	1475	13.4	110	1508	13.7

各大学ホームページおよび「2019-2021 大学の真の実力」より引用

本学の志願倍率は定員160名へ増加したと仮定して算出した。

愛知学院大学
「心理学部 心理学科」
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年2月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の愛知学院大学「心理学部 心理学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	16,657人(89校)
	有効回収数 (回収校数)	11,697人(75校) 有効回収率:70.2%
調査時期		2020年11月5日(木)～2020年12月1日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校所在地・高校種別・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度・愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向・愛知学院大学「心理学部 心理学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、愛知学院大学の「心理学部 心理学科」に対する需要を確認するための調査として設計。愛知学院大学の主な学生募集エリアである東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、11,697人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が45.8%、「女性」が53.7%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が57.8%、「私立」が42.2%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、愛知学院大学の所在地である「愛知県」が75.0%を占め、最も多い。次に「静岡県」が10.8%、「岐阜県」が8.9%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が67.5%で最も多い。次に多い「理系クラス(理系コース)」は21.3%である。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が65.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が29.2%、「専門学校・専修学校に進学」が21.9%と続く。「私立大学に進学」の割合が最も高いことから、愛知学院大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「経済・経営・商学」が21.2%で最も高い。次いで、心理学部 心理学科の学びと関連する「心理学」が18.8%である。さらに「看護・保健学」が15.6%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において6割を超える。
- 「心理学部 心理学科」の特色で最も魅力度が高いのは、「B. 世代間差、障がいの有無、LGBT、外国人との習慣の違いなどの多様性を理解し、他者と共存できる人材を養成します。」(73.3%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も26.4%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「A. 心理学のエビデンスに基づいたストレスマネジメントとコミュニケーション能力を身につけ、多種多様な業種において活躍できる人材を育成します。」(71.9%)、さらに「C. 心理学を感性工学やデータサイエンスまで拡張させ、市場調査から商品開発までビジネスに求められるスキルを持った人材を養成します。」(66.8%)、「D. これまでの実績を礎に洗練されたカリキュラムを通じて、的確かつ柔軟に心理的支援のできる専門家(公認心理師 等)を育成します。」(66.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向・入学意向

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、15.1% (11,697人中、**1,771人**)である。
- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた1,771人のうち、愛知学院大学「心理学部 心理学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、86.3% (**1,528人**)である。

愛知学院大学「心理学部 心理学科」への入学意向者数

※ここからは、愛知学院大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を愛知学院大学「心理学部 心理学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は13.1% (**1,528人**)で、予定されている入学定員160人を大きく上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の入学意向は13.3% (5,360人中、**715人**)、「女性」の入学意向は12.8% (6,284人中、**805人**)と、それぞれ予定している入学定員数を男性は4倍以上、女性は5倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「岐阜県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は20.9% (1,046人中、**219人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。愛知学院大学の所在地である「愛知県」の高校在籍者からの入学意向は12.6% (8,777人中、**1,110人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇所属クラス別

- 「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は14.7%(7,898人中、**1,162人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、「理系クラス(理系コース)」に所属している回答者の入学意向は8.4%(2,494人中、**209人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 愛知学院大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は15.7%(7,655人中、**1,204人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」に興味がある回答者の入学意向は44.5%(2,197人中、**978人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度別

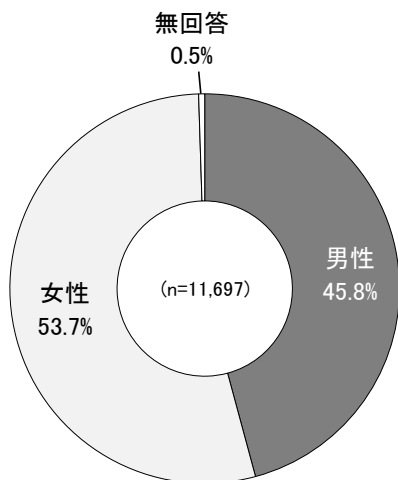
- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも16%を超えており、入学意向者数はすべて、予定している入学定員数を大きく上回っている。

高校生対象 調査結果

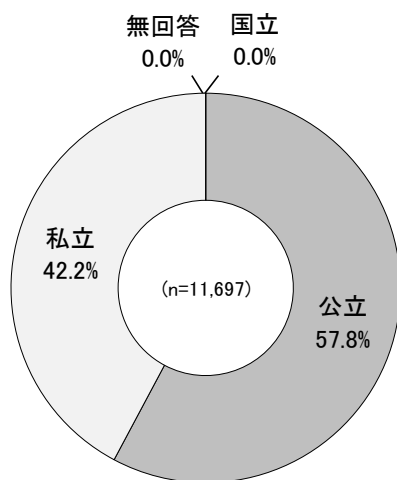


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

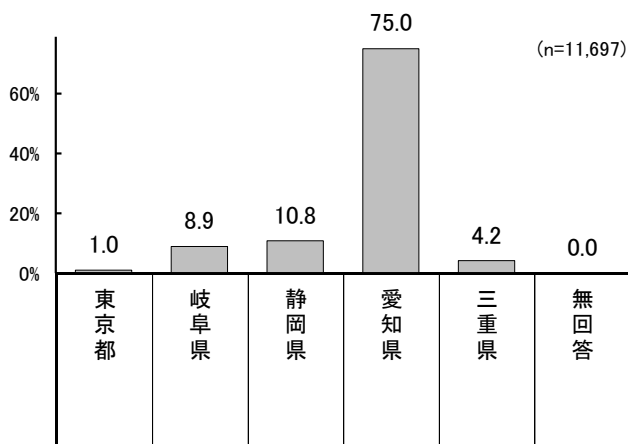
■性別



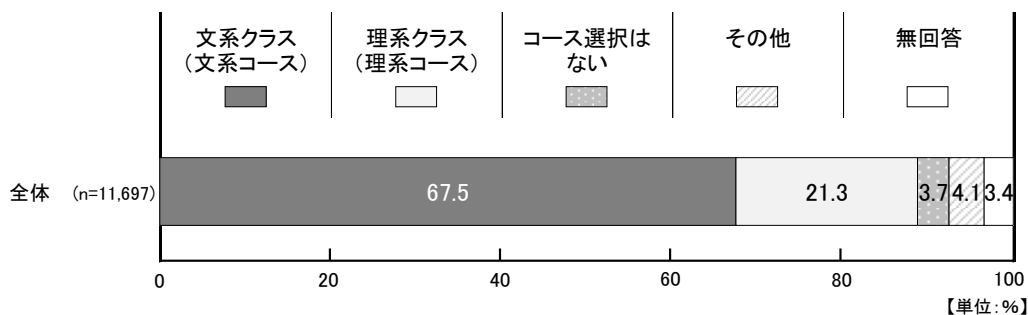
■高校種別



■高校所在地



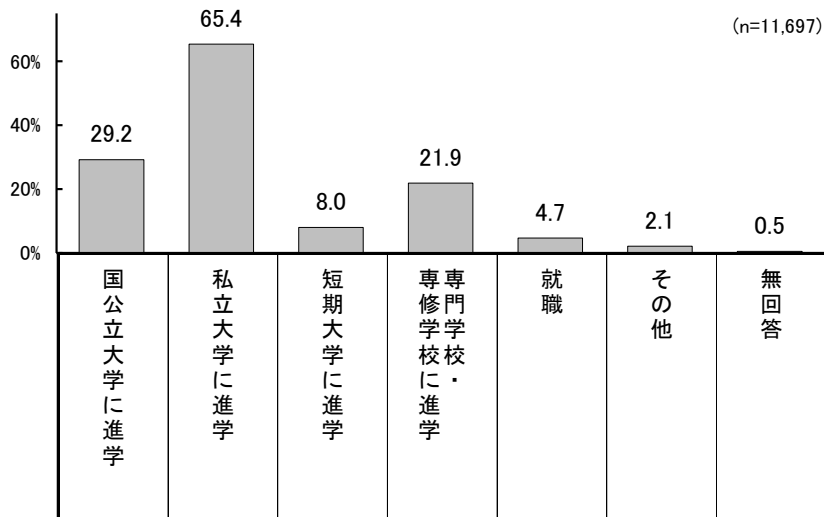
■所属クラス



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

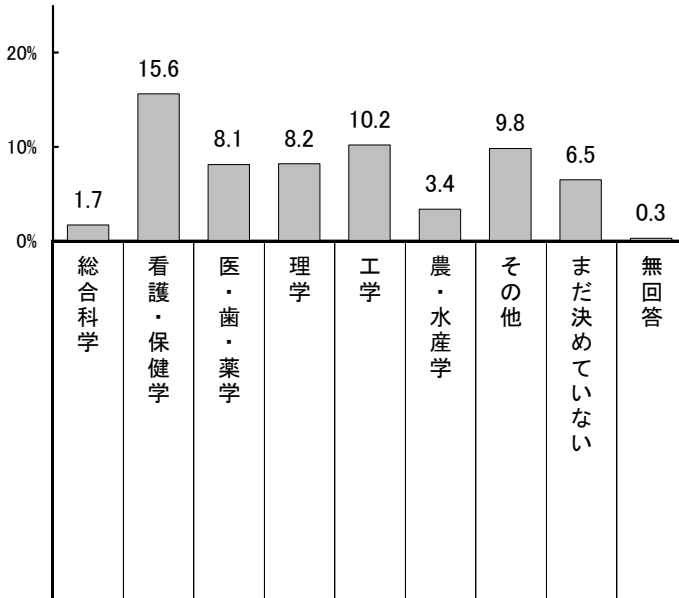
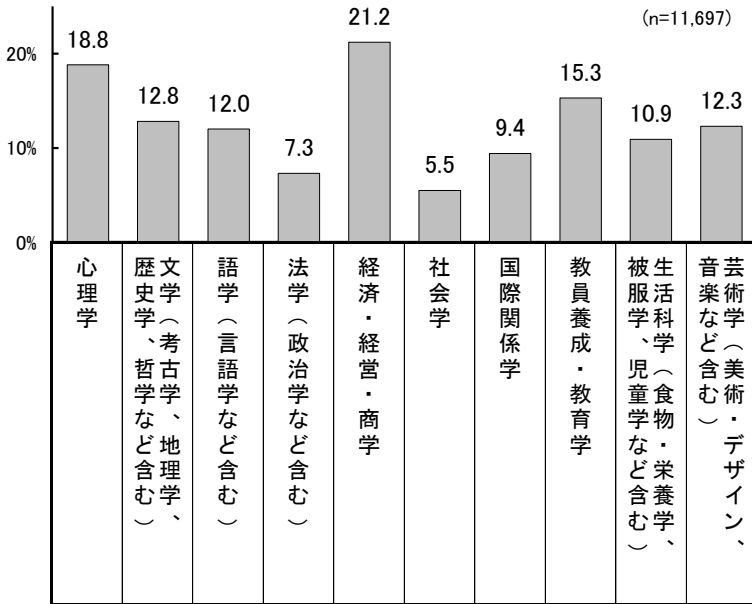
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



興味のある学問系統

■興味のある学問系統

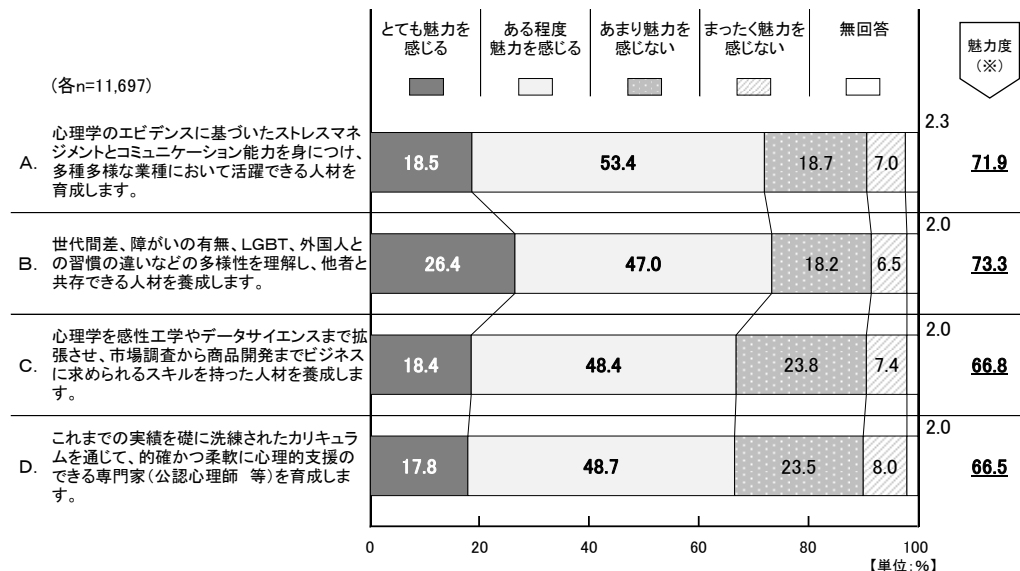
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q3. 愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



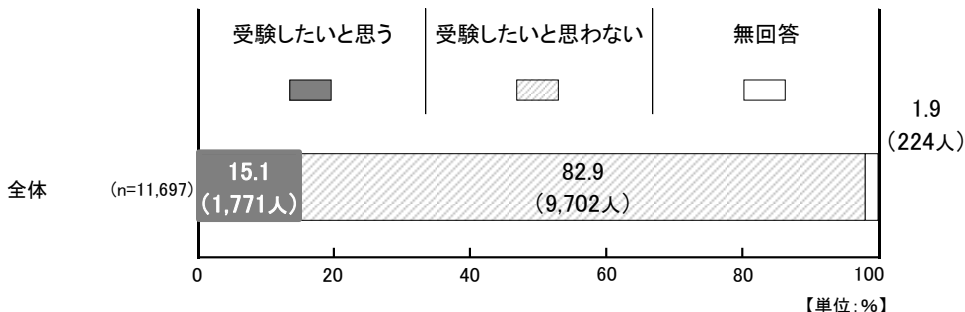
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向／ 入学意向／受験意向別入学意向

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向

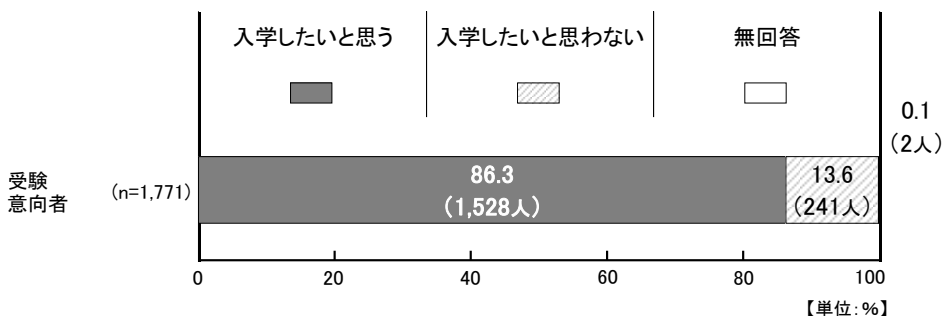
Q4. あなたは、愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つにQをつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた1,771人のみ抽出

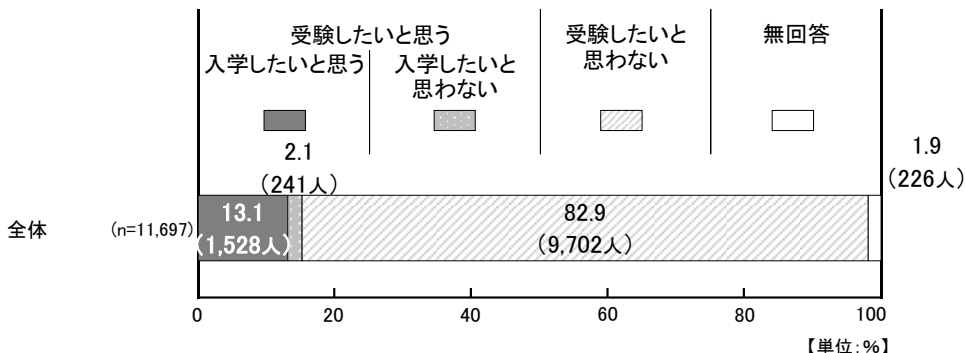
■愛知学院大学「心理学部 心理学科」への入学意向

Q5. あなたは、愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つにQをつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

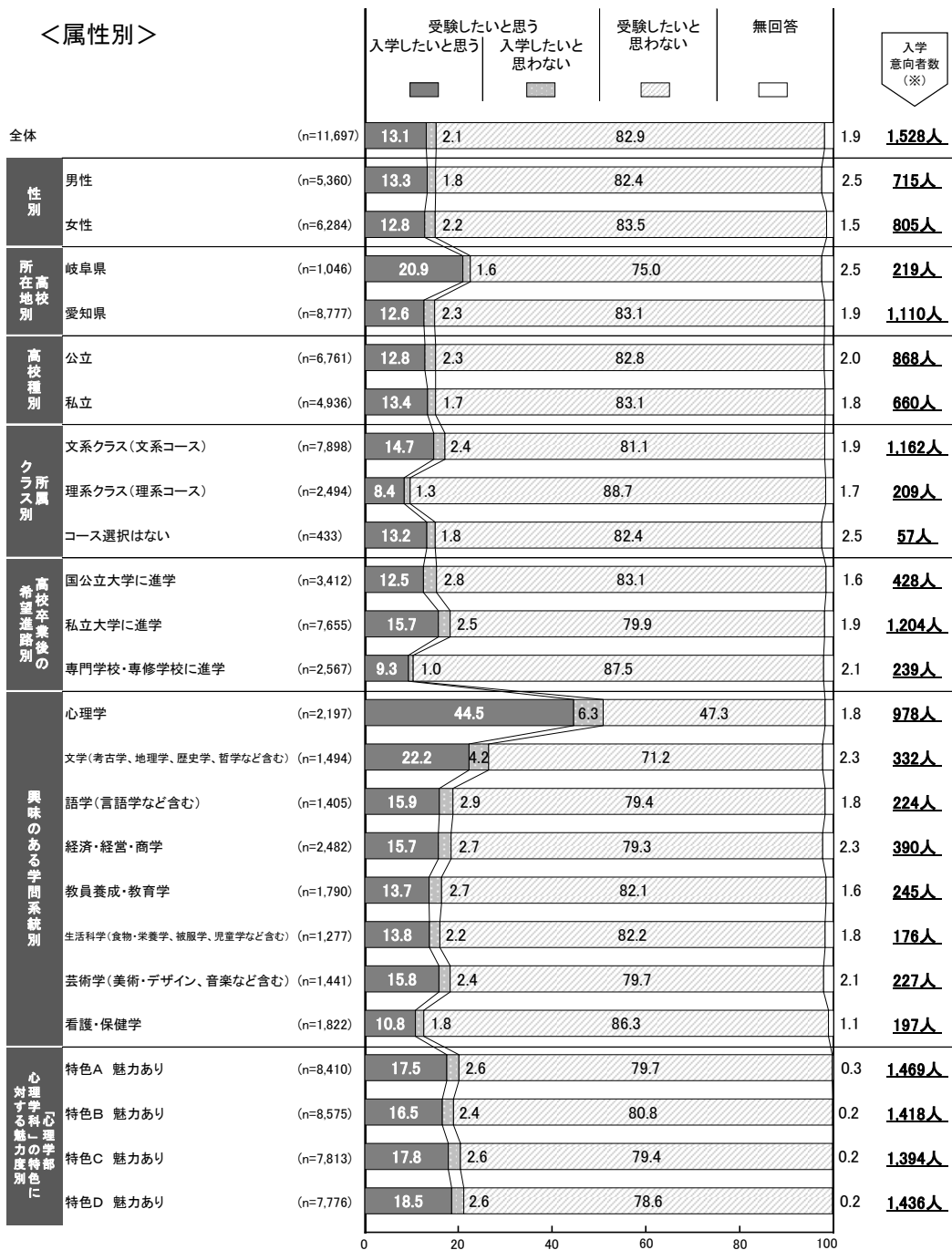
■愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向別入学意向



愛知学院大学「心理学部 心理学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※愛知学院大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を愛知学院大学「心理学部 心理学科」の入学意向者と定義する。



※ 入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

〈特色に対する魅力度 文系 vs. 理系〉

		文系クラス	理系クラス
各所属の件数		7898	2494
「魅力あり」 の回答			
特色A	件数	5841	1669
	%	74.0%	66.9%
特色B	件数	5956	1686
	%	75.4%	67.6%
特色C	件数	5336	1654
	%	67.6%	66.3%
特色D	件数	5383	1561
	%	68.2%	62.6%

卷末資料 調查票



調査票

愛知学院大学 心理学部 心理学科（仮称、設置構想中） に関するアンケート

愛知学院大学では2022年(令和4年)4月より、「心理学部 心理学科」（仮称）を新設することを構想しています。このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、愛知学院大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「心理学部 心理学科」（仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

ここに○印をつけてください

ID 12

この欄には記入しないでください

心理学

良い記入例	<input type="radio"/> 心理学	悪い記入例	<input type="radio"/> 心理学	<input checked="" type="radio"/> 心理学	<input type="radio"/> 心理学	<input type="radio"/> 心理学
<input checked="" type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 文学	

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 男性 <input type="radio"/> ② 女性	学年 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 1年生 <input type="radio"/> ② 2年生 <input type="radio"/> ③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 <input type="radio"/> ① 国立 <input type="radio"/> ② 公立 <input type="radio"/> ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	<input type="radio"/> ① 文系クラス (文系コース) <input type="radio"/> ② 理系クラス (理系コース)	<input type="radio"/> ③ コース選択はない <input type="radio"/> ④ その他	

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> ① 国公立大学に進学 | <input type="radio"/> ③ 短期大学に進学 | <input type="radio"/> ⑤ 就職 |
| <input type="radio"/> ② 私立大学に進学 | <input type="radio"/> ④ 専門学校・専修学校に進学 | <input type="radio"/> ⑥ その他 |

Q2 あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

<input type="radio"/> ① 心理学	<input type="radio"/> ⑦ 国際関係学	<input type="radio"/> ⑬ 医・歯・薬学
<input type="radio"/> ② 文学 (考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	<input type="radio"/> ⑧ 教員養成・教育学	<input type="radio"/> ⑭ 理学
<input type="radio"/> ③ 語学(言語学など含む)	<input type="radio"/> ⑨ 生活科学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む)	<input type="radio"/> ⑮ 工学
<input type="radio"/> ④ 法学(政治学など含む)	<input type="radio"/> ⑩ 芸術学(美術・デザイン、音楽など含む)	<input type="radio"/> ⑯ 農・水産学
<input type="radio"/> ⑤ 経済・経営・商学	<input type="radio"/> ⑪ 総合科学	<input type="radio"/> ⑰ その他
<input type="radio"/> ⑥ 社会学	<input type="radio"/> ⑫ 看護・保健学	<input type="radio"/> ⑱ まだ決めていない

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

データサイエンティストの採用に関するアンケート調査結果 (【資料 4】)

2 (出典)

一般社団法人データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

3 (引用範囲)

https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research_2019.pdf

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

中高生が思い描く将来についての意識調査 2019 (【資料 5】)

2 (出典)

ソニー生命保険株式会社

3 (引用範囲)

https://www.sonylife.co.jp/company/news/2019/nr_190806.html

4 (その他の説明)

高校生の目指す進路として将来なりたい職業を示すため、上記調査の図 13 を引用した。

設置概要

- 修業年限：4年 □開設時期：2022年4月
- 入学定員：160名
- 学位：学士(心理学)
- 初年度納付金(入学金含む)：1,409,000円(予定)

近隣の類似学部・学科

- 中京大学 / 心理学部 心理学科
- 愛知淑徳大学 / 心理学部 心理学科
- 中部大学 / 人文学部 心理学科
- 南山大学 / 人文学部 心理人間学科

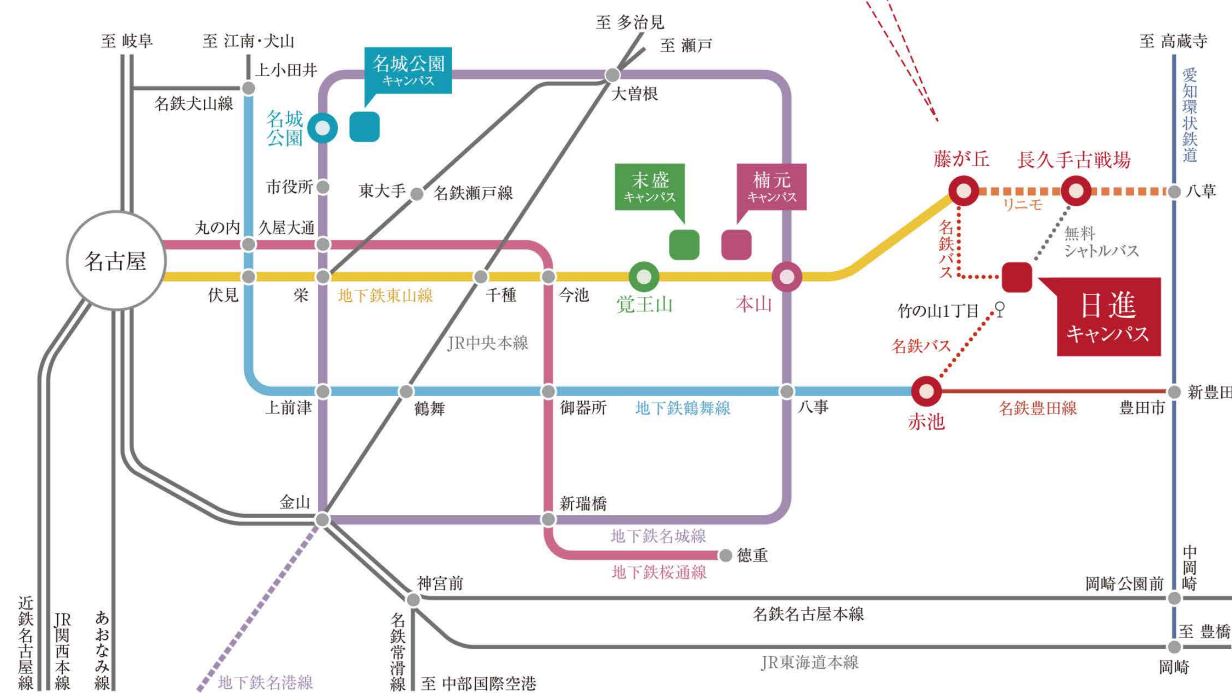
日進
キャンパス

広大な敷地に、学習・スポーツ施設も充実。
活気あふれるメインキャンパス。

住みやすい街として人気の藤が丘エリアからほど近い、学園都市である日進市に位置し、敷地面積は東京ドーム11個分に相当する約50万㎡。スポーツ施設や駐車場(1,900台)なども充実し、学生の活気に満ちています。

Access

- 地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バス「愛知学院大学前」行きで約10分
- リニモ「長久手古戦場」駅からは無料シャトルバスが運行(約7分)
- 名古屋駅の名鉄バスセンターから高速バスで約40分
- 地下鉄鶴舞線「赤池」駅から名鉄バスで約40分



つながる力。動かす力。

◇文学部：歴史学科・日本文化学科・英語英米文化学科・グローバル英語学科・宗教文化学科◇心身科学部：心理学科※・健康科学科・健康栄養学科◇商学部：商学科
◇経営学部：経営学科◇経済学部：経済学科◇法学部：法律学科・現代社会法学科◇総合政策学部：総合政策学科◇薬学部：医療薬学科(6年制)◇歯学部：歯学科
◇短期大学部：歯科衛生学科(3年制)◇歯科技工専門学校 ※2022年4月 心理学部 心理学科(仮称)に改組(設置構想中)

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12 TEL.0561-73-1111(代) E-mail:nyushi@dpc.agu.ac.jp https://www.agu.ac.jp

心理学部 心理学科

[仮称・設置構想中]

2022年
開設予定

50年の系譜を継ぎ、新しい心理学がはじまる。

時代は変わる。
人のこころはどうだろう。

※記載の内容は計画中の予定であり、変更の可能性がありますのでご了承ください。



つながる力。動かす力。

変わる時代へ。 伝統の学びをベースに 新しい心理学で社会へ貢献。

少子高齢化、在留外国人、LGBTなど、社会の多様化・複雑化。
ビッグデータ、AI、IoTなど、世界に押し寄せる情報技術の波。
時代の変化が人の「こころ」に与える影響の解明や、
それをビジネス・産業に活かすための新しい心理学が今、求められています。
半世紀の歴史と伝統を持つ愛知学院大学の心理学科が、
現代社会の期待に応える、新しい心理学部 心理学科として生まれ変わります。

養成する人材像

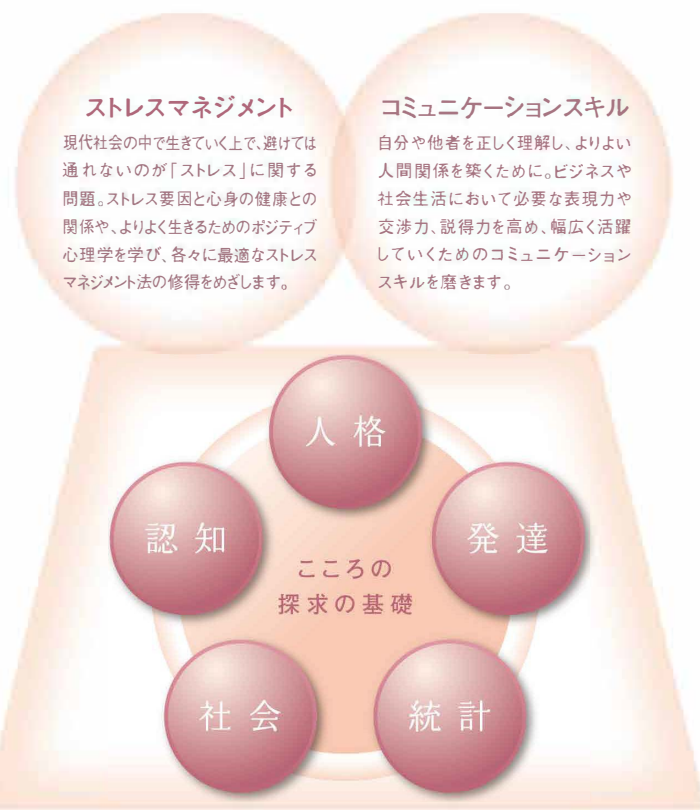
地域社会、ビジネス、医療・教育分野において
幅広く貢献できる人材育成をめざします。

変わり続ける私たちの生活様式において、「こころ」の
諸問題も多様化しています。心理学部では、そうしたさまざまな
心理社会的事象に対して客観的な観察と分析をもって、
問題の本質を的確に把握し、課題解決のための方略を
構想できる学術的素養を備えた社会人を養成します。

学びのPOINT 1

心理学の基礎を学びスキルを磨く。

心理学の5つの領域から人の「こころ」の基礎を理解する。
愛知学院大学では、心理学の5つの領域から基礎教育に取り組んでいます。
実験、調査、検査、面接法など客観的な評価方法をもって、
「こころ」のしくみを探求していきます。
さらに、これらの心理学のエビデンスを活用し、アクティブラーニングを通じて、
ストレスマネジメントやコミュニケーションスキルを身につけていきます。



アクティブラーニング

課題研究やグループワークなど、アクティブラーニング形式の学修スタイルを積極的に取り入れています。ワークショップやプレゼンテーションなど、実践的かつ能動的な学びを通して、自ら学び、主体的に考える力を自然と身につけることができます。

学びのPOINT 2

3つの分野で専門性を極める。



さまざまな人と共に生きる・支える 多文化・共生分野

世代の違い、障がいの有無、LGBT、外国人との習慣の違いなど、現代社会は多様性にあふれています。環境や社会状況が人の「こころ」のしくみに与える影響を学ぶことで、多様な他者と共存できる人材を育成します。

科目 Pick up

「異文化理解」

「あの人は○○だからわかってくれない。」こう断定するとき、人は多種多様であるはずの他者を、相いれない価値観を持つ「異文化」として拒絶してしまっています。異文化として分け隔てる人の心理を学ぶことを通して、多様な価値観への理解と実社会への応用をめざします。



【関連科目】異文化理解、文化心理学、障害者・障害児心理学



科学的知見を多様な産業に活かす 情報・ビジネス分野

商品開発、ビッグデータ、VR、AIなどの最先端の技術にも、人の「こころ」の働きが関わっています。心理学を感性工学、データサイエンスまで拡張させ、ビジネスに強い人材を養成。私たちの生活に関わるさまざまな分野において、心理学的実証データを有効活用するためのスキル修得をめざします。

科目 Pick up

「感性工学、消費者行動論」

例えば、「かわいい腕時計が欲しい」または「高級感の漂うバッグを作りたい」と思ったりします。このような商品をVR技術によって3Dで表現し、「かわいい」または「高級感」という感性を視線の動きを測定し、客観的に評価していく。これらの工程を学ぶことにより、プロダクトデザインのエキスパートをめざします。



【関連科目】感性工学、消費者行動論、ビッグデータ分析



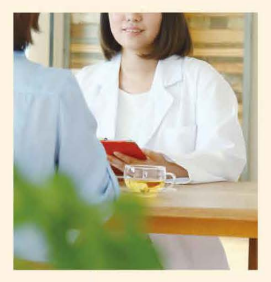
支援を必要とする人を支える 心理学実践分野 (含 公認心理師コース)

保健医療をはじめ福祉、教育などの分野で心理的支援のできる人材育成をめざします。これまでの臨床心理士育成の豊富な実績と経験を活かし、心理的支援の理論とスキルについて実践的に学び、さまざまなニーズに柔軟に対応できる公認心理師を養成します。

科目 Pick up

「臨床心理学」

心理的な問題の解決をめざす「臨床心理学」。実際に「クライアント(相談者)」に有効な支援をするためには「こころ」の成り立ちやしくみをしっかり理解すると同時に、具体的な援助法を身につける必要があります。この授業では、人間の感情、思考、行動のどこに不調があるのかを見極めて、問題解決に向かう心理支援の基礎を学びます。



【関連科目】心理学的支援法、健康・医療心理学、多職種連携

学びのPOINT 3

広がる活躍のフィールド。

[めざせる進路]

- ◆教育・相談機関
- ◆福祉関連
- ◆地域における外国人への支援業務
- ◆心理学または関連分野の研究者、大学教員

[取得をめざす資格]

- ◆高等学校教諭一種免許状(公民)
- ◆特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)
- ◆認定心理士

[めざせる進路]

- ◆プロダクトデザイン(商品開発)
- ◆システムエンジニア ◆広告デザイン
- ◆マーケティングリサーチ
- ◆心理学または関連分野の研究者、大学教員

[取得をめざす資格]

- ◆社会調査士 ◆カラーコーディネーター
- ◆福祉住環境コーディネーター
- ◆認定心理士

[めざせる進路]

- ◆医療機関で働く心理士
- ◆スクールカウンセラー
- ◆公的機関の心理職(警察、法務技官など)
- ◆児童養護施設指導員
- ◆心理学または関連分野の研究者、大学教員

[取得をめざす資格]

- ◆公認心理師* ◆臨床心理士* ◆認定心理士
- ◆児童福祉司 ◆児童心理司
- ◆児童指導員任用資格 ※大学院修了を必要とする。

資料7 東海4県における受験および入学意向を示す受験生の予測値(2022年～2030年)

	年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
東海4県における18人口	人数(名)	140,422	138,255	133,282	136,990	137,732	136,346	134,321	134,406	132,217
	変化率(%)	100.0	98.5	94.9	97.6	98.1	97.1	95.7	95.7	94.2
受験および入学意向を示す受験生	予測値(名)	1,512	1,489	1,435	1,475	1,483	1,468	1,446	1,447	1,424

本予測値は「高校生アンケート結果(資料3)」および「東海エリアの18歳人口の予測推移(資料11)」のデータを利用し、各年度の「受験&入学意向」を示す受験生の予測値を算出した。なお基準値となる2022年度の値は、東海4県からの受験者数(1528×0.99≒1512名)から予測した。

愛知学院大学
「心理学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和3年2月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の愛知学院大学「心理学部 心理学科」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア (発送エリア)		北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,595社
	回収数(回収率)	480社(30.1%)
調査時期		2020年11月5日(木)～2020年11月30日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
<ul style="list-style-type: none">・人事採用への関与度・本社所在地・業種・従業員数・正規社員の平均採用人数・本年度の採用予定数・採用したい学問分野・愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度・愛知学院大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性・愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向・愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、愛知学院大学「心理学部 心理学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。愛知学院大学「心理学部 心理学科」の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、480社から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が66.9%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、愛知学院大学の所在地である「愛知県」が68.5%を占め、最も多い。次いで「東京都」「岐阜県」が同率で7.9%である。
- 回答企業の業種としては「卸売・小売業」が28.8%で最も多い。次いで「医療・福祉」が15.2%、「製造業」が12.9%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が39.8%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が16.5%、「500名～1,000名未満」が16.0%である。

回答企業の採用状況(過去3か年)／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が24.4%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が23.1%、「5名～10名未満」が13.1%である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が56.3%で最も多い。次いで「増やす」が16.3%である。回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」の割合が51.5%で最も高い。次いで「経済・経営・商学」が26.0%、「工学」が17.7%である。また、「心理学部 心理学科」の学びに関連のある「心理学」も17.5%と高い。

企業対象 調査結果まとめ

愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で7割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 心理学のエビデンスに基づいたストレスマネジメントとコミュニケーション能力を身につけ、多種多様な業種において活躍できる人材を育成します。」(93.1%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も42.3%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「B. 世代間差、障がいの有無、LGBT、外国人との習慣の違いなどの多様性を理解し、他者と共存できる人材を養成します。」(86.0%)、さらに「C. 心理学を感性工学やデータサイエンスまで拡張させ、市場調査から商品開発までビジネスに求められるスキルを持った人材を養成します。」(81.9%)、「D. これまでの実績を礎に洗練されたカリキュラムを通じて、的確かつ柔軟に心理的支援のできる専門家(公認心理師 等)を育成します。」(70.8%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

企業対象 調査結果まとめ

愛知学院大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性についての評価は、94.4% (480社中、**453社**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、80.8% (480社中、**388社**)である。
- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた388社へ愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**661名**で、予定している入学定員数160名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇本社所在地別

- 「中部」エリアに本社がある企業からの採用意向は、79.5% (414社中、**329社**)。採用想定人数の合計は**530人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「愛知県」に本社がある企業からの採用意向は、79.9% (329社中、**263社**)。採用想定人数の合計は**399人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 「卸売・小売業」の企業からの採用意向は、87.7% (138社中、**121社**)。採用想定人数の合計は**255人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」の企業からの採用意向は82.7% (191社中、**158社**)。採用想定人数の合計は**242人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「昨年度並み」と回答した企業からの採用意向は、86.3% (270社中、**233社**)。採用想定人数の合計は**419人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇採用したい学問分野別

- 心理学部 心理学科の学びに関連のある「心理学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、98.8% (84社中、**83社**)。採用想定人数の合計は**151人**で、採用意向が高いことがうかがえる。

◇愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度別

- 愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、いずれの特色でも8割を超えており、採用想定人数の合計もすべて500人以上と、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

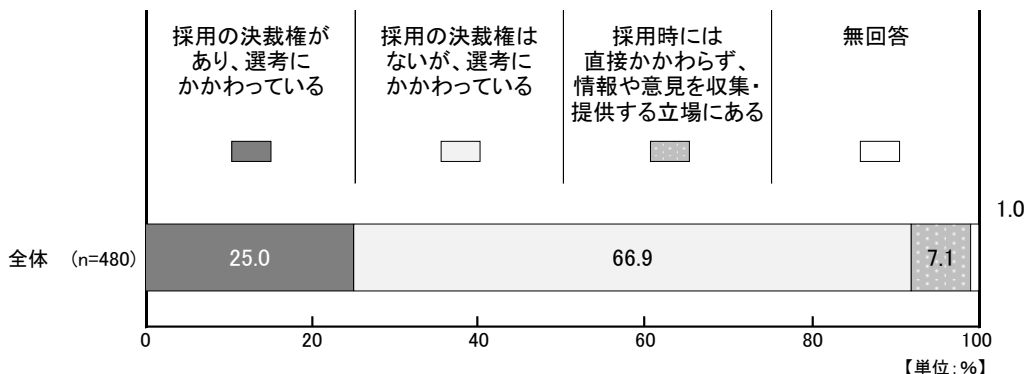
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

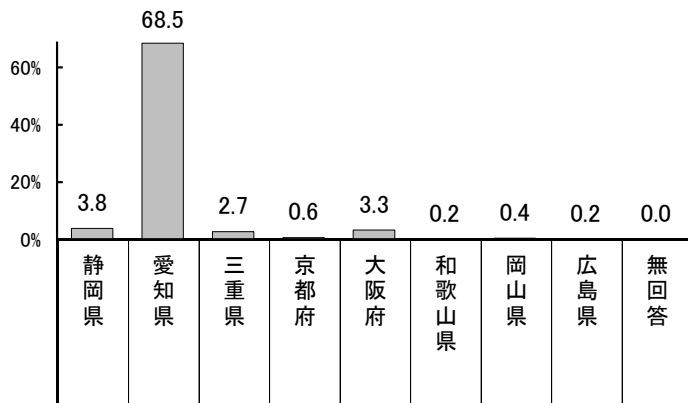
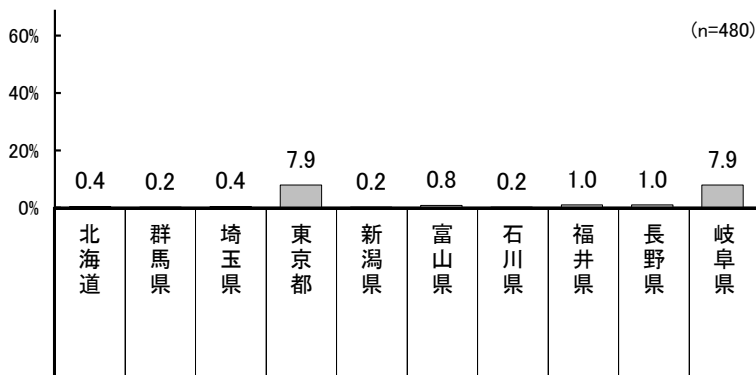
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

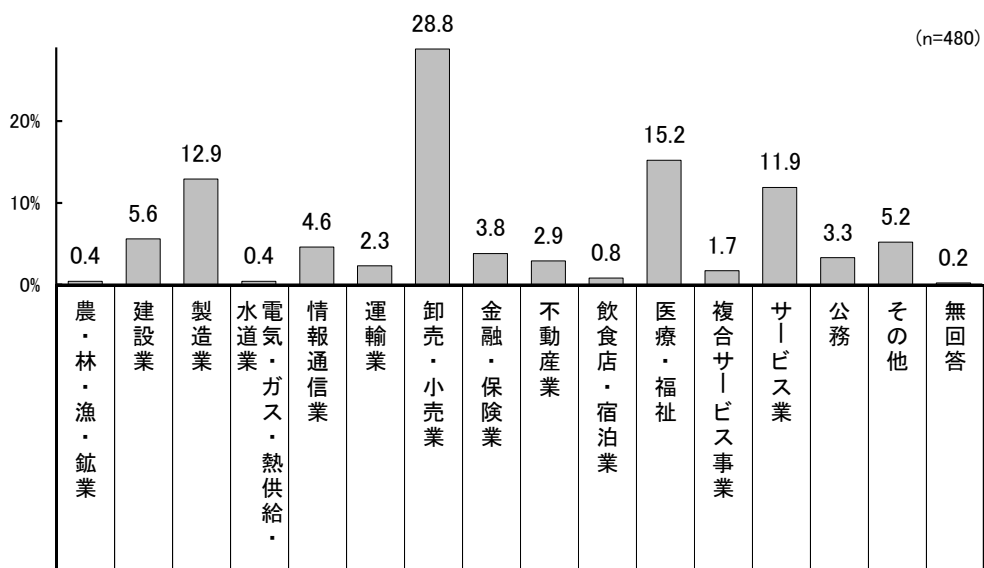
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

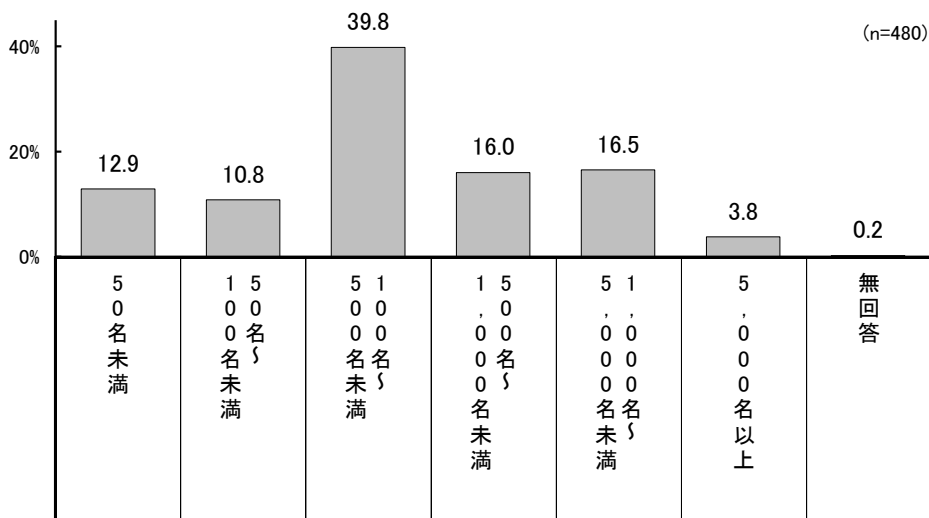
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

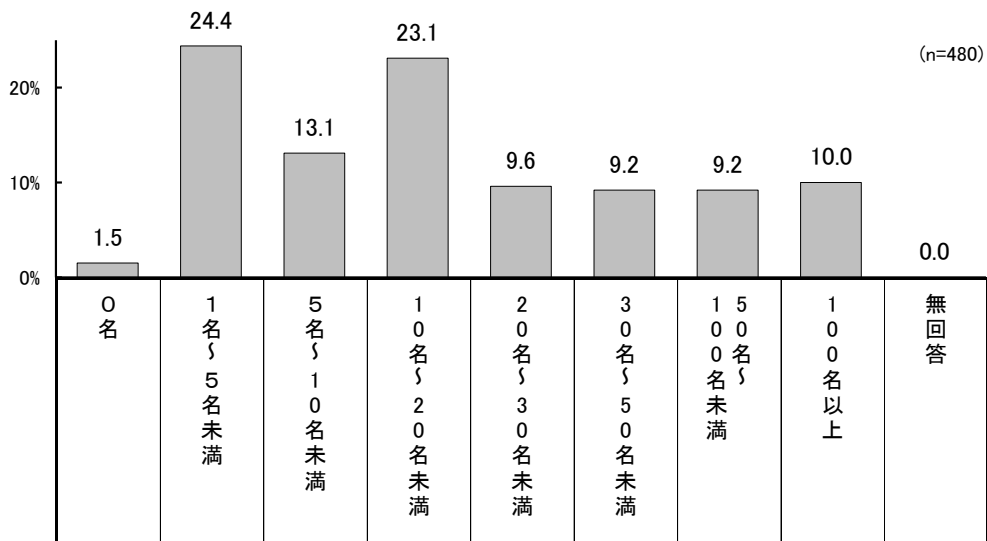
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

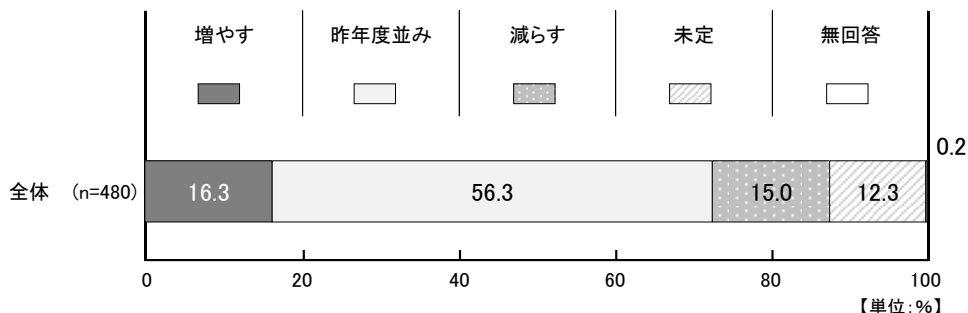
■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本年度の採用予定数

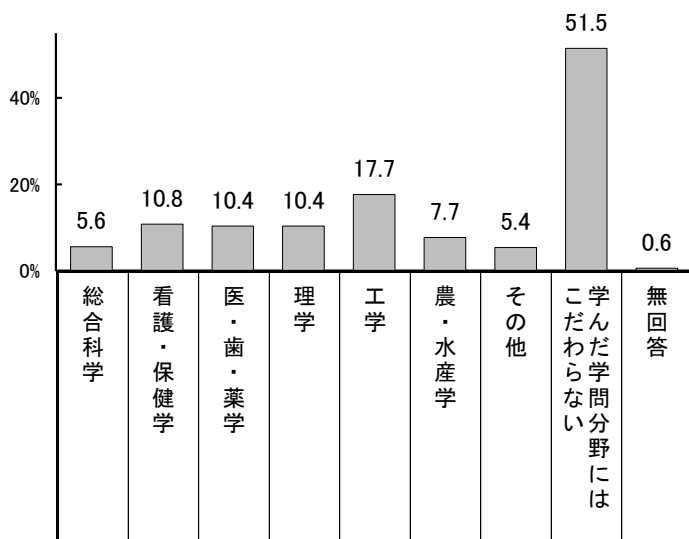
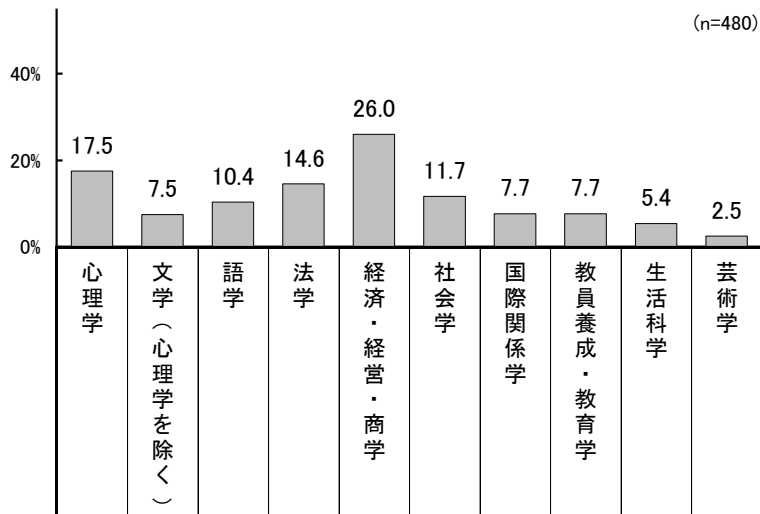
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

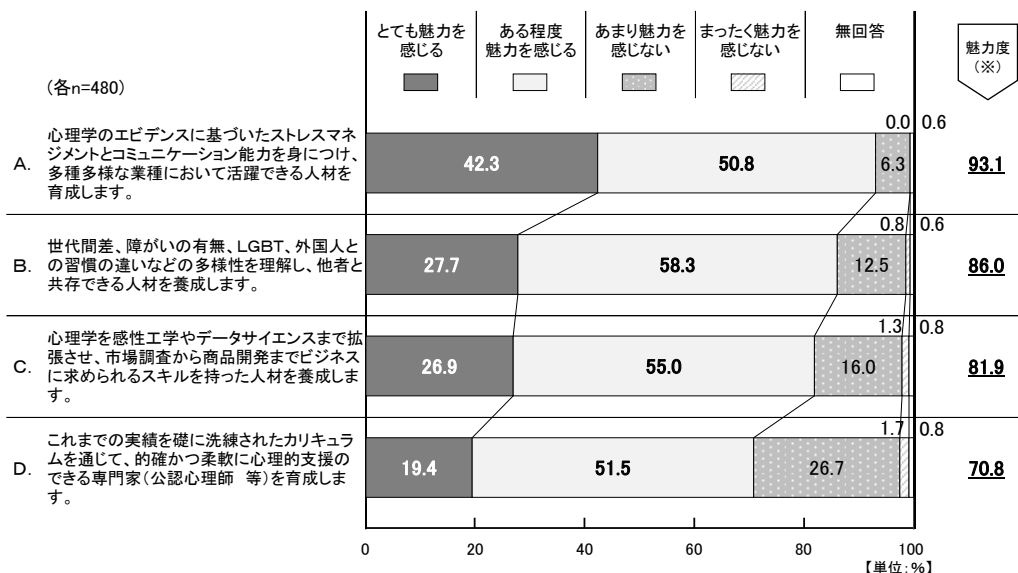
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q8. 愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



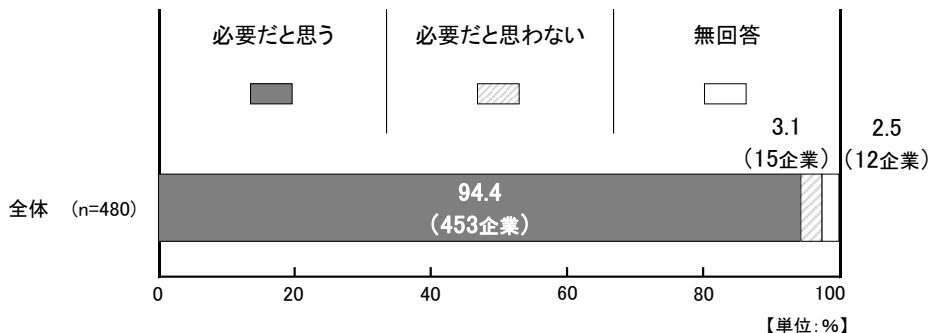
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

愛知学院大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

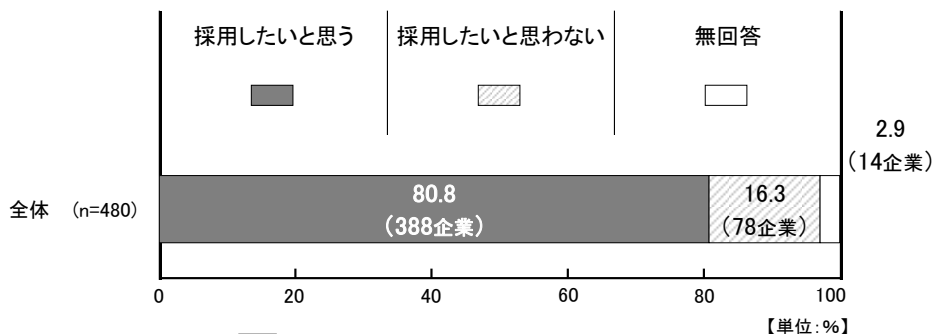
■愛知学院大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



■愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた388社のみ抽出

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	
		%	58.8%	12.4%	12.6%	1.3%	5.2%	1.8%
全体	388	企業数	228	48	49	5	20	7
		名	228	96	147	20	100	70

計お示毎
(※よしの採
(※びたの採
(※)採企採
用業用
想数想
定・定
人数計
・人数
を

⇒

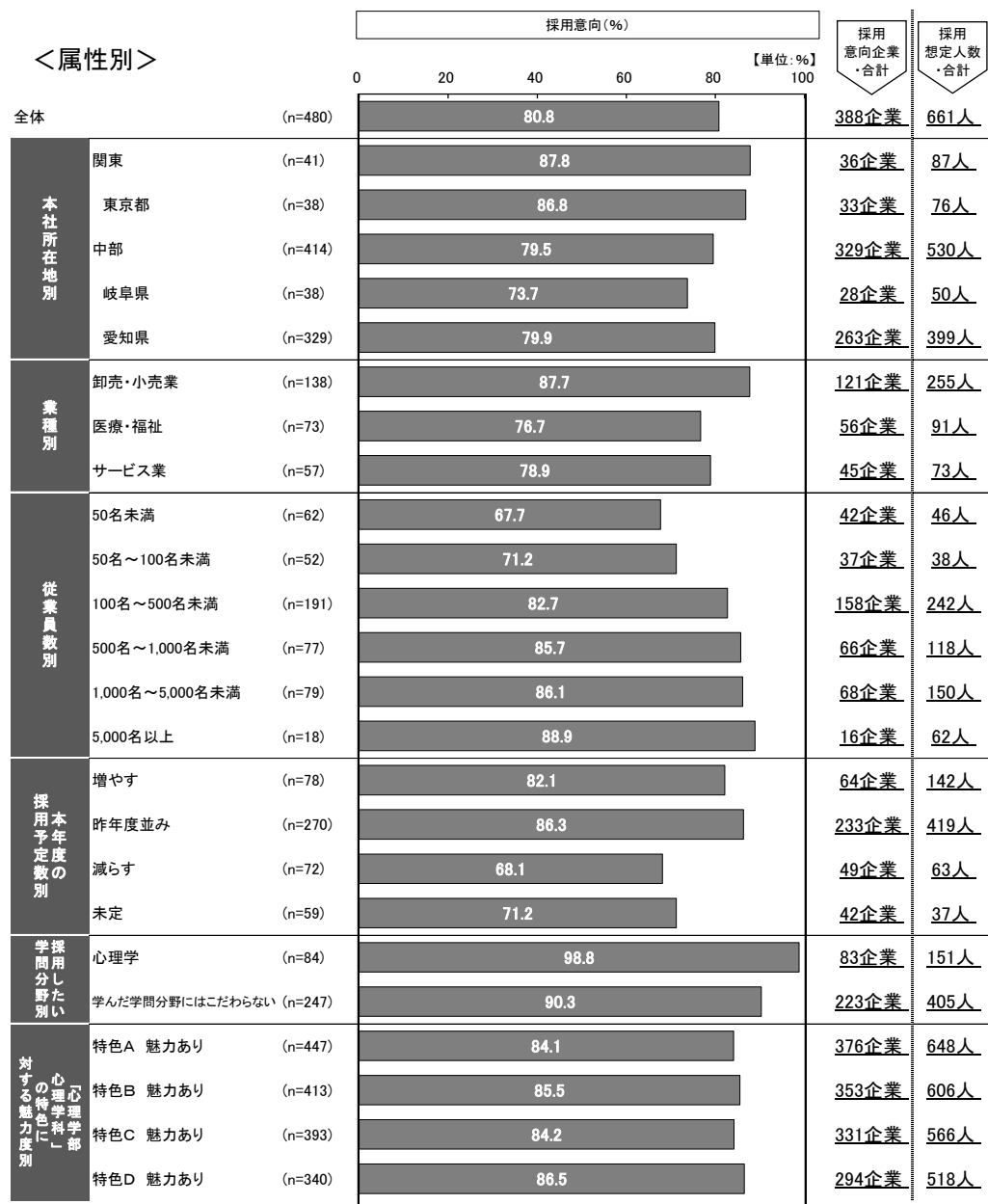
357
661

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■愛知学院大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※愛知学院大学「心理学部 心理学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票



調査票

愛知学院大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中) に関するアンケート

愛知学院大学では2022年(令和4年)4月より、「心理学部 心理学科」(仮称)を新設することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

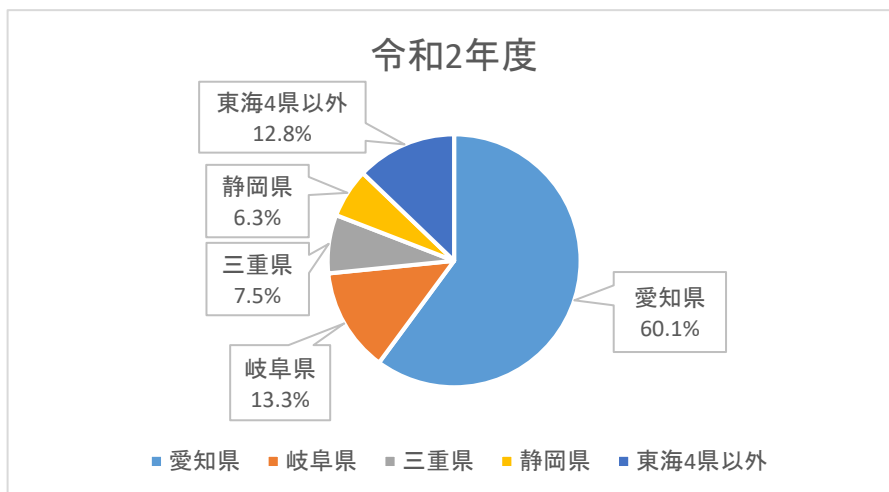
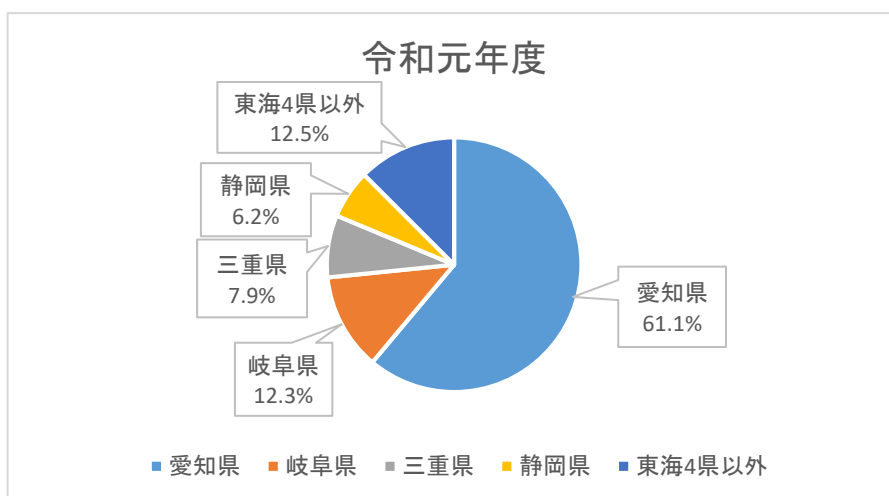
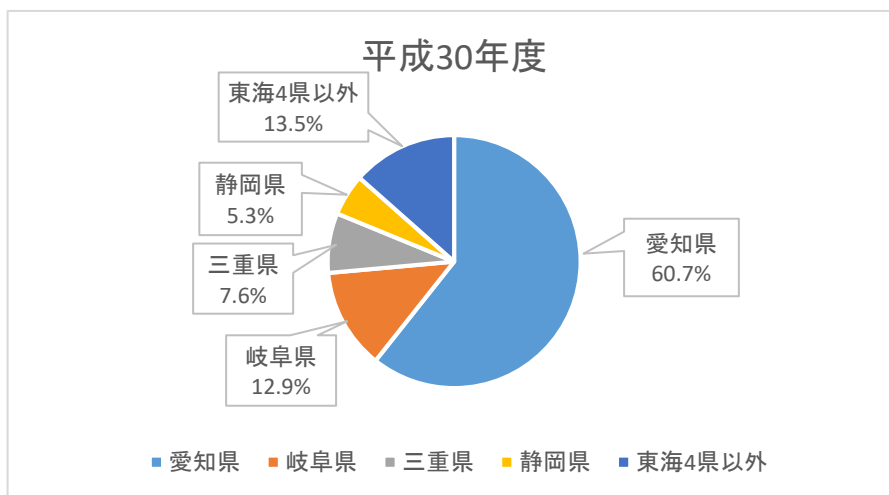
資料9 本学の選択受験科目における数学選択の傾向

年度	2016	2017	2018	2019	2020	5年間 平均比率
心理学科	26.8%	22.5%	18.3%	17.2%	15.7%	19.3%
その他の文系学部	16.7%	13.1%	12.1%	13.0%	12.3%	13.3%

その他の文系学部とは、同受験方式を採用する本学文系学部（文，総合政策，経済，経営，商，法）とした

資料10 本学の出身都道府県データ(平成30年度～令和2年度)

都道府県	入学者数			構成比		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
愛知県	1,501	1,616	1,528	60.7%	61.1%	60.1%
岐阜県	319	326	338	12.9%	12.3%	13.3%
三重県	189	208	190	7.6%	7.9%	7.5%
静岡県	132	164	160	5.3%	6.2%	6.3%
小計	2,141	2,314	2,216	86.5%	87.5%	87.2%
東海4県以外	333	331	326	13.5%	12.5%	12.8%
計	2,474	2,645	2,542	100.0%	100.0%	100.0%



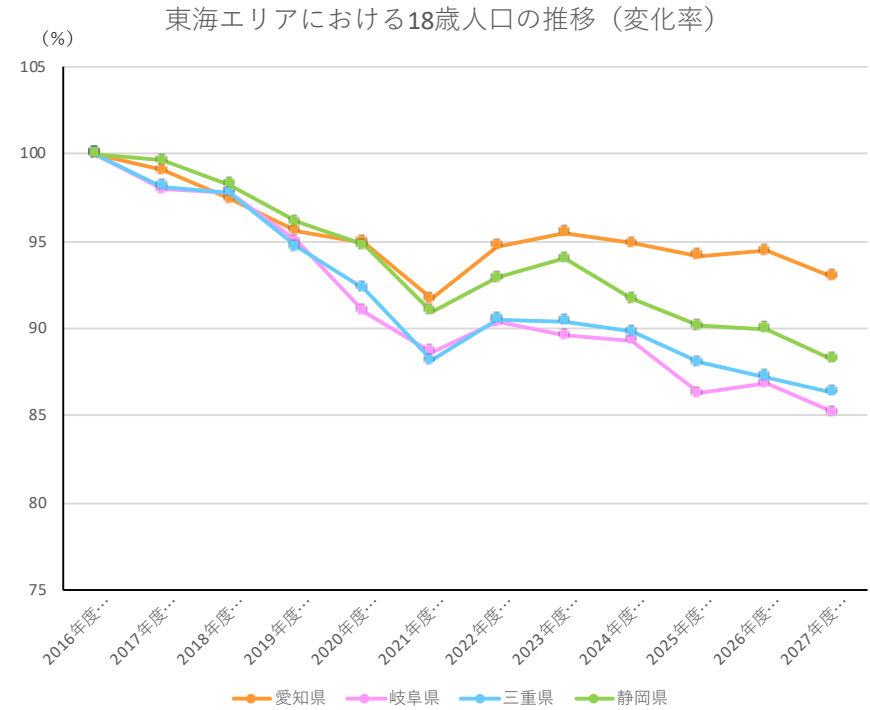
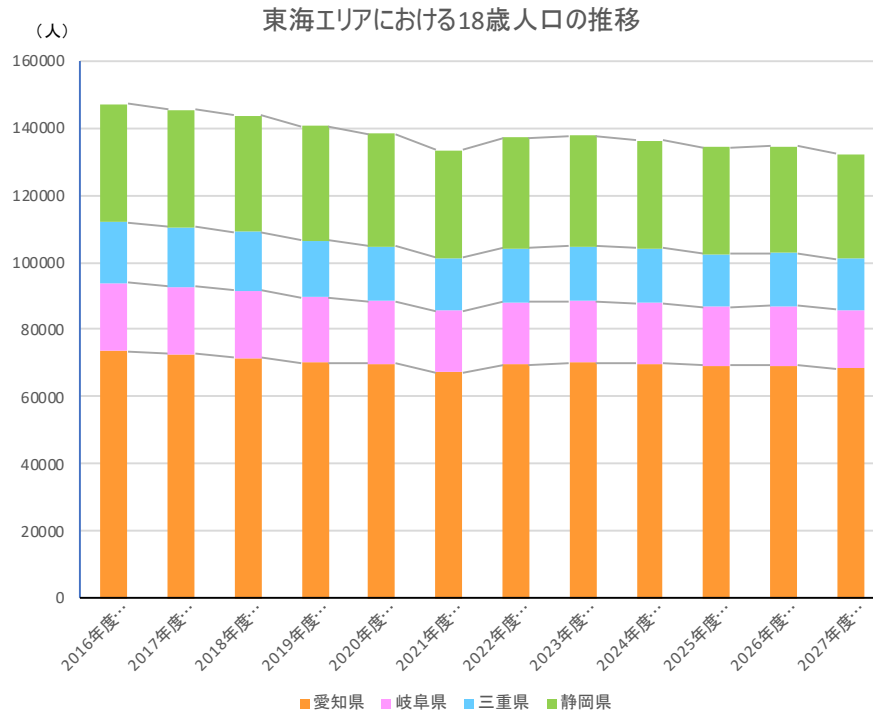
資料11 東海4県の18歳未満の人口予測推移 (1/2)

		2019年度 (2019.3中卒)	2020年度 (2019.3中卒)	2021年度 (2019.3中卒)	2022年度 (2019年度中3)	2023年度 (2019年度中2)	2024年度 (2019年度中1)	2025年度 (2019年度小6)	2026年度 (2019年度小5)	2027年度 (2019年度小4)	2028年度 (2019年度小3)	2029年度 (2019年度小2)	2030年度 (2019年度小1)
愛知県	人数	73,454	72,784	71,537	70,201	69,740	67,330	69,571	70,118	69,703	69,164	69,342	68,275
	変化率	100.0	99.1	97.4	95.6	94.9	91.7	94.7	95.5	94.9	94.2	94.4	92.9
岐阜県	人数	20,490	20,069	20,034	19,463	18,641	18,163	18,514	18,349	18,298	17,677	17,788	17,450
	変化率	100.0	97.9	97.8	95.0	91.0	88.6	90.4	89.6	89.3	86.3	86.8	85.2
三重県	人数	17,852	17,513	17,458	16,894	16,477	15,740	16,162	16,143	16,027	15,718	15,567	15,413
	変化率	100.0	98.1	97.8	94.6	92.3	88.2	90.5	90.4	89.8	88.0	87.2	86.3
静岡県	人数	35,245	35,112	34,622	33,864	33,397	32,049	32,743	33,122	32,318	31,762	31,709	31,079
	変化率	100.0	99.6	98.2	96.1	94.8	90.9	92.9	94.0	91.7	90.1	90.0	88.2
東海4県	人数	147,041	145,478	143,651	140,422	138,255	133,282	136,990	137,732	136,346	134,321	134,406	132,217
	変化率	100.0	98.9	97.7	95.5	94.0	90.6	93.2	93.7	92.7	91.3	91.4	89.9
全国	人数	1,174,801	1,167,348	1,141,140	1,121,276	1,097,105	1,061,961	1,089,005	1,093,565	1,085,011	1,068,978	1,066,720	1,048,177
	変化率	100.0	99.4	97.1	95.4	93.4	90.4	92.7	93.1	92.4	91.0	90.8	89.2

※変化率は、2019年を100として算出。

(リクルート進学総研 18歳人口・進学率推移より)

資料11 (2/2)



- 愛知県：2019年 73,454名→2030年 68,275名 (5,179名減) (減少率 7.1%)
- 東海4県：2019年 147,041名→2030年 132,217名 (14,824名減) (減少率 10.1%)
- 全国：2019年 1,174,801名→2030年 1,048,177名 (126,624名減) (減少率 10.8%)

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

「都道府県データでみる大学進学・初職就職時の地域間移動」(【資料 12】)

2 (出典)

後河 正浩 著

3 (引用範囲)

「若者の地域間移動の傾向と要因 —都道府県データでみる大学進学・初職就職時の地域間移動—」 (京都産業大学経済学レビューNo.6) (9 ページ、23 ページ)

https://ksu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&ite49&item_no=1&page_id=13&block_id=21_m_id=102

高等教育に関する基礎データ(都道府県別)②

※数値精査中

(特に、埼玉県、神奈川県、山梨県については入学定員充足率(H45)の数値が実際よりも高くなっている可能性があるため、精査が必要。)

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
18歳人口【H28】	104,632	79,242	22,347	10,098	11,055	7,983	8,748	21,154	20,560	35,404	72,998	18,120
高校等卒業者数【H28】	101,558	66,037	20,059	9,161	10,203	7,348	8,595	18,988	18,029	32,058	63,656	15,952
大学進学者数【H28】	76,039	43,077	9,459	4,527	5,435	3,817	4,930	9,194	9,292	16,890	38,244	7,969
大学進学率【H28】	72.7%	54.4%	42.3%	44.8%	49.2%	47.8%	56.4%	43.5%	45.2%	47.7%	52.4%	44.0%
短大進学率【H28】	6.4%	3.8%	3.0%	4.7%	7.6%	5.8%	6.5%	6.7%	8.5%	3.1%	5.3%	4.1%
専門学校進学率(現役)【H28】	12.2%	15.8%	25.3%	16.5%	13.8%	13.8%	18.2%	21.3%	13.3%	16.8%	12.9%	14.9%
大学数【H28】	137	31	18	5	12	5	7	9	12	14	50	7
大学数(国公私別)【H28】	12 2 123	2 2 27	3 3 12	1 1 3	2 3 7	1 2 2	1 2 4	1 1 7	1 3 8	2 2 10	4 4 42	1 1 5
入学定員【H28】	154,853	36,641	5,835	2,370	5,827	2,095	3,225	3,368	4,820	7,865	40,098	3,030
入学定員(国公私別)【H28】	10,031 1,570 143,252	1,662 1,070 33,909	2,487 583 2,765	1,800 250 320	1,726 350 3,751	855 425 815	825 950 1,450	1,978 80 1,310	1,240 200 3,380	2,145 890 4,830	3,992 1,708 34,398	1,310 100 1,620
大学入学者数【H28】	149,860	48,328	5,948	2,387	5,895	2,285	4,269	3,496	4,608	8,000	42,047	3,149
県外から流入【H28】	99,934	30,898	2,643	1,587	3,542	1,185	2,957	1,928	2,856	3,284	14,759	1,531
県内から流出【H28】	26,113	25,647	6,154	3,727	3,082	2,717	3,618	7,626	7,540	12,174	10,956	6,351
流出入差(流入-流出)【H28】	73,821	5,251	-3,511	-2,140	460	-1,532	-661	-5,698	-4,684	-8,890	3,803	-4,820
大学進学者数推計【H45】	86,793	35,357	6,906	3,397	4,379	2,913	3,698	6,803	7,116	13,950	33,279	6,358
大学入学者数推計【H45】	135,913	42,682	4,502	1,843	4,640	1,728	3,512	2,725	3,691	6,600	35,511	2,627
入学定員充足率推計【H45】	87.8%	116.5%	77.2%	77.8%	79.6%	82.5%	108.9%	80.9%	76.6%	83.9%	88.6%	86.7%
県内就職率(国公私別)【H26】	75.0% 73.5% 66.4%	16.8% 34.0% 23.6%	44.5% 72.4% 66.5%	39.2% 39.0% 47.0%	35.3% 40.7% 47.0%	51.6% 45.3% 47.0%	33.5% 24.3% 66.5%	43.2% 62.3% 66.5%	40.0% 35.0% 54.9%	52.3% 64.5% 54.9%	62.9% 61.3% 54.9%	35.3% 78.7% 58.2%
地域内就職率(国私別)【H26】	82.2% / 81.5%	76.5% / 79.0%	60.1% / 70.9%	78.9% / 61.5%	74.7% / 61.5%	78.1% / 61.5%	63.9% / 70.9%	63.9% / 70.9%	80.6% / 71.5%	73.2% / 71.5%	71.2% / 71.5%	45.2% / 73.2%

高等教育に関する基礎データ(都道府県別)について

《注》※数値については精査が必要なものもあり、今後修正の可能性がある。特に、埼玉県、神奈川県、山梨県については入学定員と大学入学者数をカウントする都道府県が一致していない等の理由により、入学定員充足率【H45】の数値が実際よりも高くなっている可能性があるため、精査が必要。

- **18歳人口**:各県における3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数
- **高校等卒業者数**:各県における当該年度の高等学校卒業者数及び中等教育学校後期課程修了者数
- **大学進学者数**:各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数(過年度卒業者等を含む)
- **大学進学率**:各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **短大進学率**:各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **専門学校進学率(現役)**:各県における高校等卒業者数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合(現役進学者のみ)
- **大学数**:各県に所在する大学の数(※大学本部の所在地による)
- **入学定員**:各県に所在する大学の入学定員(※学部の所在地による)
- **大学入学者数**:当該年度に、各県に所在する大学(※入学した学部の所在地による)に入学した者の数(過年度卒業者、高卒認定試験合格者、外国の学校の課程を修了した者等を含む)
- **県外から流入**:当該大学の所在する県以外の高校等卒業者で当該大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **県内から流出**:当該大学の所在する県内の高校等卒業者で当該県(自県)以外の大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **流出入差(流入-流出)**:「県外から流入」-「県内から流出」
※《出典》上記のうち、入学定員以外:文部科学省「学校基本統計(平成28年度)」を元に作成、入学定員:文部科学省調べ
- **大学進学者数推計【H45】**:各県におけるH45の大学進学率がH27と同率と仮定した場合の各県におけるH45の大学進学者数(国立教育政策研究所による推計)
- **大学入学者数推計【H45】**:各県におけるH45の大学進学率がH27と同率と仮定した場合の各県におけるH45の大学入学者数(国立教育政策研究所による推計)
- **入学定員充足率推計【H45】**:H45の入学定員がH28と同じ場合の入学定員充足率(国公立合計)
- **県内就職率(国公立別)【H26】**:H26年8月に文部科学省が各大学に対して行ったアンケートにおいて、各県の大学を卒業して就職した者のうち、当該大学の所在県内に就職した者の数。私立大学については学校法人に対する任意のアンケートに対して回答があったものを集計しており、個別大学ごとではなく集計値で公表することを前提にアンケートを実施したため地域単位で括ったデータとなっており、また、各大学が保有する就職地に関するデータは、各大学によって、「学生が就職した本社所在地」で把握している場合と、「学生が配属された地域」で把握している場合の両方があり、集計方法が異なっているため、単純に比較することはできない(例:北海道に本社のある企業の東京支社に配属された場合、「北海道」とカウントするか「東京」とカウントするかが大学によって異なっている)。
- **地域内就職率(国私立別)【H26】**:H26年8月に文部科学省が各大学に対して行ったアンケートにおいて、各県の大学を卒業して就職した者のうち、当該大学の所在地域内(※)に就職した者の数。

(※)地域区分…(国立)「北海道・東北」…北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島「関東」…栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川

「中部」…新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知「近畿」…三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

「中国」…鳥取、島根、岡山、広島、山口「四国」…香川、徳島、愛媛、高知「九州」…福岡、佐賀、大分、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

(私立)「北海道」…北海道「東北」…青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島「北関東」…茨城、栃木、群馬「南関東」…埼玉、千葉、東京、神奈川

「甲信越」…新潟、山梨、長野「北陸」…富山、石川、福井「東海」…岐阜、静岡、愛知、三重「近畿」…滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

「中国」…鳥取、島根、岡山、広島、山口「四国」…香川、徳島、愛媛、高知「九州」…福岡、佐賀、大分、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※公立大学については地域内就職者のデータがない。

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

全国および本学における求人件数 (【資料 14】 1 ページ)

2 (出典)

リクルートワークス研究所

3 (引用範囲)

第 37 回ワークス大卒求人倍率調査 (2021 卒)

https://www.works-i.com/research/works-report/item/200806_kyujin.pdf

4 (その他の説明)

- ・ 2016年度から2020年度を対象として、求人総数および民間企業就職希望者数、求人倍率の推移を引用した。

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

2020年「全国社長の出身大学」調査 (【資料 15】)

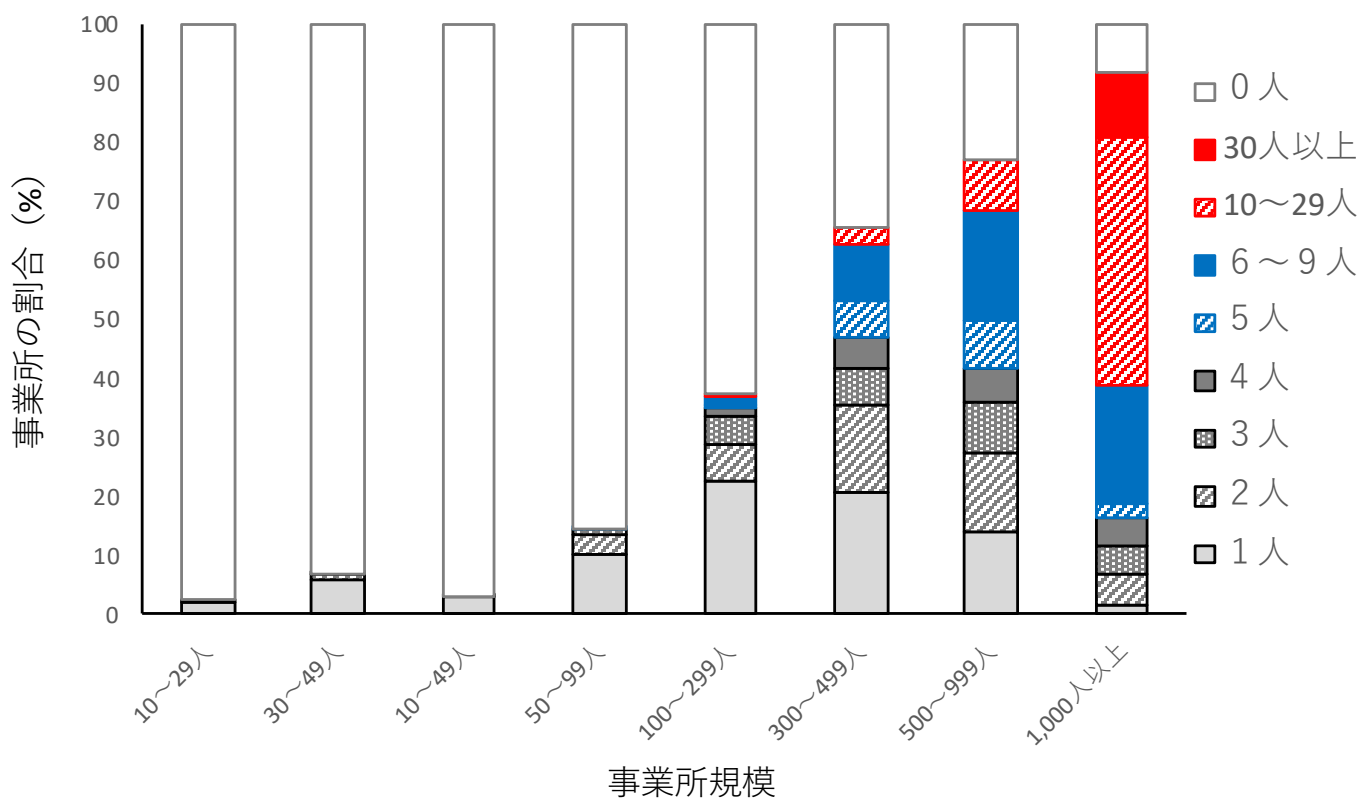
2 (出典)

株式会社東京商工リサーチ

3 (引用範囲)

https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20201202_03.html

資料16 厚生労働省 平成30年労働安全衛生調査 (実態調査)



メンタルヘルスの不調により連続1か月以上の休業者がいた事業所の割合。厚生労働省による労働安全衛生調査(実態調査) 事業所平成30年労働安全衛生調査(実態調査)よりデータを引用して作図

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

図表で見る愛知県の外国人の状況 (【資料 17】)

2 (出典)

愛知県

3 (引用範囲)

https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/175300_347158_misc.pdf

数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進

令和3年度要求・要望額 10億円
 (前年度予算額 10億円)



※国立大学法人運営費交付金の内数 文部科学省

● 背景・課題

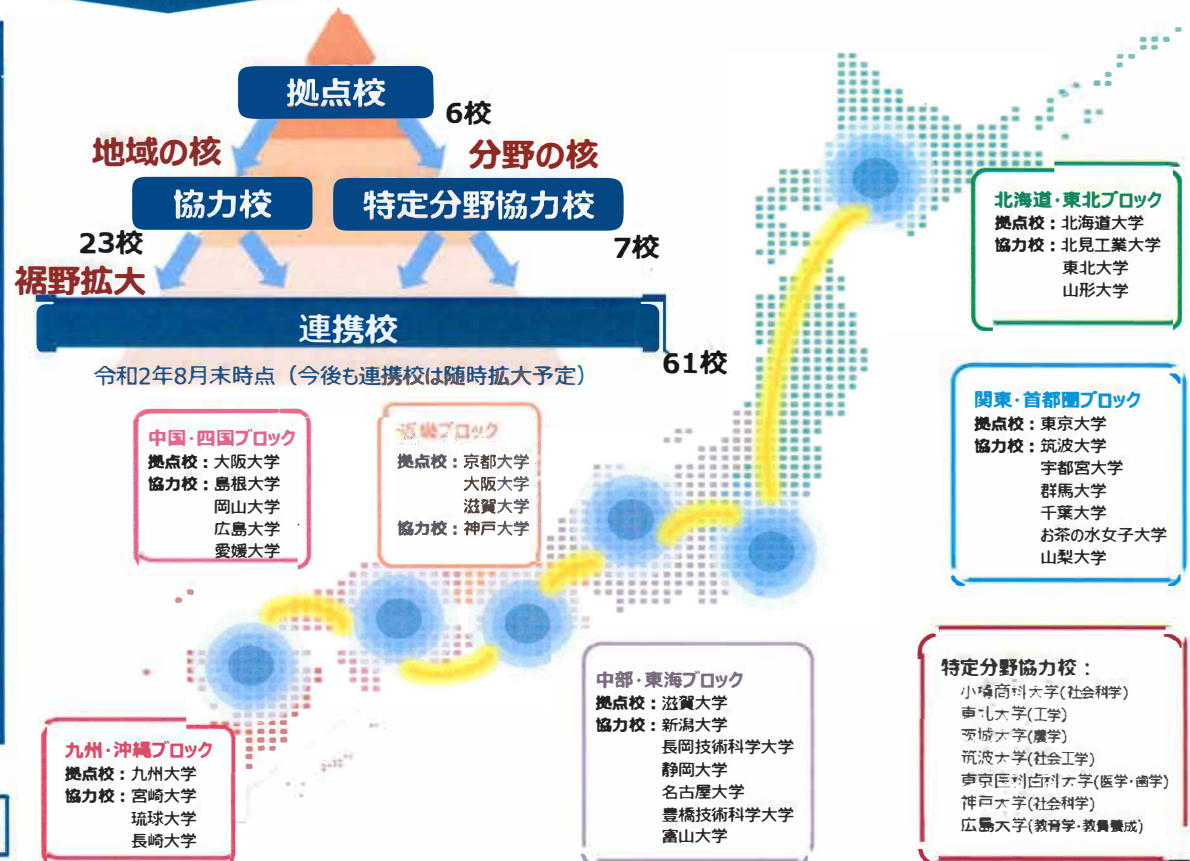
- ✓ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要
- ✓ AI戦略2019では、**2025年度を目標年度**として、**①文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が初級レベルの能力を習得すること、②大学・高専生（約25万人卒/年）が、自らの専門分野への応用基礎力を習得することが掲げられている**

⇒ ・上記目標に向け、国公立大学等への展開を引き続き取り組む必要

・全国への普及・展開をより一層加速するため、数理・データサイエンス・AI教育に必要な教材開発や教育リソースの整備を進めるとともに、教育の実施体制の強化など図る必要

取組内容

- **6大学を拠点校**として、全学的な数理・データサイエンス・AI教育を先行的に実施するとともに、拠点校を中心に形成するコンソーシアムにおいて、**モデルカリキュラム**を踏まえた**教材等の開発**や、教育に活用可能な**社会の実課題・実データの収集・整備**等を実施
 - **30大学を協力校・特定分野協力校**として、**全国の国公立大学等への普及・展開**を図るとともに、教育連携ネットワークを形成し、**教えることができる教員を増やすためのワークショップやFD活動等を実施**
- ※協力校と特定分野協力校は重複している大学あり
- **61大学を連携校**として、自らの教員を養成するとともに、ワークショップやFDに積極的に参画し、数理・データサイエンス・AI教育の普及・促進の観点から、地域における大学との連携等を主体的に実施



+

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の構築・運用